

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書原典講読Ⅰ a		左近 豊	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 旧約聖書ヒブル語本文を批判的手続きを経ながら読むことを主眼とします。			
<到達目標> テキストの文献学的諸問題、そして文芸学的特長を把握することができるようになることを目標とします。			
<授業の概要> エレミヤ書と哀歌を取り上げます。それぞれに旧約の民の歩みの重要な局面で語られた言葉であり、旧約聖書の人間観、世界観、そして歴史観を反映しています。写本、古代訳を参照しつつヒブル語本文を読み、教会での説教、聖書研究における釈義に資する諸資料の紹介と活用を実際を学びます。			
<履修条件>ヒブル語文法履修者			
<授業計画> 第1回：エレミヤ書 序 1:1-3 第2回：エレミヤ書 1:4-8 第3回：エレミヤ書 1:9-10 第4回：エレミヤ書 1:11-13 第5回：エレミヤ書 1:14-16 第6回：エレミヤ書 1:17-19 第7回：エレミヤ書 2:1-3 第8回：エレミヤ書 2:4-6 第9回：エレミヤ書 2:7-9 第10回：エレミヤ書 2:10-13 第11回：エレミヤ書 2:14-16 第12回：哀歌 1:3~5 第13回：哀歌 1:6~7 第14回：哀歌 1:8~11 第15回：総括			
<準備学習等の指示> 事前に当該箇所の釈義上の諸問題を把握し、神学的思索を携えて授業に臨むことが望ましい。			
<テキスト> <i>Biblia Hebraica Stuttgartensia</i> (BHS)			
<参考書・参考資料等> 辞書:F.Brown, S.R.Driver, and C.A.Briggs eds., <i>Hebrew and English Lexicon of the Old Testament</i> . (BDB)、L. Koehler and W.Baumgartner, <i>The Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament (HALOT)</i> 、 文法書: <i>Gesenius' Hebrew Grammar</i> 、B.Waltke and M.O'Connor, <i>An Introduction to Biblical Hebrew Syntax</i> , H.Bauer and P.Leander, <i>Historische Grammatik der hebraeischen Sprache</i> . 参考書:ヴェルトヴァイン著『旧約聖書の本文研究』、E.Tov, <i>Textual Criticism of the Hebrew Bible</i> 、『左近淑著作集Ⅲ』、Field, <i>Origenis Hexapla</i> コンコルダンス:Lisowsky, <i>Konkordanz zum Hebraeischen Alten Testament</i> 、S.Mandelkern, <i>Veteris Testamenti concordantiae hebraicae atque chaldaicae</i> 、E.Hatch and H.A.Redpath, <i>A Concordance to the Septuagint and the other Greek Versions of the Old Testament</i> (LXX) など			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業参加 40% 期末レポート 60%			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書原典講読Ⅱ b		小友 聡	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> ヒブル語文法の基礎文法を理解した上で、ダニエル書の講読をする			
<到達目標> ヒブル語の基礎を理解し、辞書を用いて、独力でヒブル語本文を直訳できるようになる。			
<授業の概要> BHS を用い、ダニエル書（ヒブル語部分）を読む。			
<履修条件> ヒブル語を未履修であっても、アルファベットがわかり、基礎文法をだいたい理解できる人。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 ヘブライ語辞典の使い方 第3回 ダニエル書 1 章 1-3 節の講読 第4回 同 1 章 4-6 節の講読 第5回 同 1 章 7-9 節の講読 第6回 同 1 章 10-12 節の講読 第7回 同 1 章 13-15 節の講読 第8回 同 1 章 16-18 節の講読 第9回 同 1 章 19-21 節の講読 第10回 同 2 章 1-4 節の講読 第11回 同 12 章 1-3 節の講読 第12回 同 12 章 4-6 節の講読 第13回 同 12 章 7-9 節の講読 第14回 同 12 章 10-13 節の講読 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 毎回、予習をして授業に臨むこと。			
<テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia(BHS)			
<参考書・参考資料等> 辞書は、F.Rrown, S.R.Driver and C.A,Briggs, Hebrew and English Lexicon of the Old Testament (BDB)を用いる。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度、積極性で評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書原典釈義Ⅰ a		本間 敏雄	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 原初史に続く創世記の第二部、族長物語冒頭に位置するアブラハム物語の12、13章をヒブル語原典（マソラ本文）において釈義する。			
＜到達目標＞ ヒブル語本文の構文分析、釈義の諸方法論を修得し、当該テキストを本文学的に釈義する。現代の代表的印刷聖書BHS及びBHQ本文とマソラ情報の特質を把握し、それぞれの脚注の内容判断と背景洞察、本文学的評価ができる。レニングラード写本（Codex Leningradensis）本文を読むことができ、写本本文の基礎的特質をマソラと共に理解できる。			
＜授業の概要＞ 創世記12、13章のアブラム物語をレニングラード写本（L）で読み、写本本文の特徴とマソラを概説。ヒブル語本文の語分析と構文分析、本文批判、文献批判、様式史、伝承史等釈義的諸方法を検討しつつ釈義し「テキストの神学」理解を試みる。現代の印刷聖書本文と脚注の特質を学び諸欧文訳、諸邦訳との関係も把握したい。アブラム物語に関わり、五書研究史と資料説を概説。後期課程「旧約聖書特殊研究 a」と合同。マソラ本文形成の歴史についても学ぶ（前期：写本とマソラ）。			
＜履修条件＞ ヒブル語基礎文法修得者。			
＜授業計画＞ 第1回 創世記12：1 アブラハム物語全体像、召命 第2回 12：2－3 召命と約束 第3回 12：4－6 アブラムの応答 第4回 12：7－9 顕現と祭壇 第5回 12：10－13 エジプトへ 第6回 12：14－17 サラの召し入れ 第7回 12：18－20 エジプト退去 第8回 五書研究史（資料説）とアブラハム物語 第9回 マソラ本文形成の歴史（1）：写本とマソラ 第10回 13：1－4 ベテルへの旅 第11回 13：5－7 一族の争い 第12回 13：8－9 別れの提案 第13回 13：10－13 ロトの選択 第14回 13：14－18 約束の更新 第15回 総括：召命と応答			
＜準備学習等の指示＞ ヒブル語本文をBHSにより記し、辞書作業により各節ごとに文意を考察する。当該本文を「ヒブル語入門」特に10文の構造（構文論）により調査し、釈義的問題点を把握。BHS、BHQ脚注を参照、検討し、諸翻訳における本文理解と根拠、相関を考察する。なお釈義入門書と諸註解により、釈義的諸段階、経過と方法論を考察しておくこと。			
＜テキスト＞ Biblia Hebraica Stuttgartensia(BHS):Genesis、Biblia Hebraica Quinta(BHQ):Genesis、レニングラード写本（Codex Leningradensis）写真版。「ヒブル語入門」（改訂増補版 左近／本間）（10.文の構造（構文論）、12補説：本文の諸現象（補注一覧））。			
＜参考書・参考資料等＞ 「旧約聖書の本文研究」（E.ヴェルトヴァイン 鍋谷／本間共訳）、「旧約聖書釈義入門」（H.バルト／O.H.シュテック 山我哲雄訳）。「ヘブライ語聖書への手引き」（R.ウォンネベルガー 松田伊作訳）、A simplified guide to BHS(H.P.Rueger). U.Cassuto,Commentary on Genesis II, von Rad,Genesis(ATD)他。諸文献、資料は順次提示（マソラ本文専門資料→特研）。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 予習と課題発表、討議、レポート（本文7000字以上）の総合で評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書原典釈義 I b		本間 敏雄	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 創世記アブラハム物語の14，15章をヒブル語原典（マソラ本文）において釈義する。			
<到達目標> ヒブル語本文の構文分析、釈義の諸方法論を修得し、当該テキストを本文学的に釈義する。現代の代表的印刷聖書BHS及びBHQ本文とマソラ情報の特質を把握し、それぞれの脚注の内容判断と背景洞察、本文学的評価ができる。レニングラード写本（Codex Leningradensis）本文の基礎的特質をマソラと共に理解できる。			
<授業の概要> 創世記14，15章のアブラム物語をレニングラード写本（L）で読み、写本文本文の特徴を概説。ヒブル語本文の語分析と構文分析、本文批判、文献批判、様式史、伝承史等釈義的諸方法を検討しつつ釈義し「テキストの神学」理解を試みる。五書研究史にも触れ、近現代の印刷聖書本文と脚注の特質を学び諸欧文訳、諸邦訳との関係も把握したい。後期課程「旧約聖書特殊研究 b」と合同。マソラ本文形成の歴史について学ぶ（後期：マソラ本文の諸現象、神学）。			
<履修条件> ヒブル語基礎文法修得者			
<授業計画> 第1回 創世記14：1－4 王たちの戦い（1） 第2回 14：5－9 王たちの戦い（2） 第3回 14：10－12 ソドムのロト 第4回 14：13－16 ロトの救出 第5回 14：17－20 メルキゼデクの祝福 第6回 14：21－24 ソドムの王 第7回 メルキゼデク／十分の一伝承 第8回 マソラ本文形成の歴史（2）：マソラ本文の諸現象（ <i>ケル</i> 、母音、 <i>アケント</i> 等） 第9回 マソラ本文形成の歴史（3）：マソラ本文の神学 第10回 15：1－3 神の約束 第11回 15：4－6 アブラムの信仰 第12回 15：7－11 子孫と土地の約束 契約儀式（1） 第13回 15：12－16 暗黒と幻 第14回 15：17－21 炉と松明 契約儀式（2） 第15回 総括：信仰義認と契約神学			
<準備学習等の指示> ヒブル語本文をレニングラード写本を手本に記し、辞書作業により各節ごとに文意を考察する。当該本文を「ヒブル語入門」特に10文の構造（構文論）により調査し、釈義の問題点を把握。BHS，BHQ脚注を参照、検討し、諸翻訳における本文理解と根拠、相関を考察する。なお釈義入門書と諸註解により釈義的諸段階、経過と方法論を考察しておくこと。			
<テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia(BHS):Genesis、Biblia Hebraica Quinta(BHQ):Genesis、レニングラード写本（Codex Leningradensis）写真版。「ヒブル語入門」（改訂増補版 左近／本間）（10文の構造（構文論）、12補説：本文の諸現象（補注一覧））。			
<参考書・参考資料等> 「旧約聖書の本文研究」（E.ヴェルトヴァイン 鍋谷／本間共訳）、「旧約聖書釈義入門」（H.バルト／O.H.シュテック 山我哲雄訳）。「ヘブライ語聖書への手引き」（R.ウオンネベルガー 松田伊作訳）、A simplified guide to BHS(H.P.Rueger). 諸註解、文献は順次提示（マソラ本文専門資料→特研）			
<学生に対する評価（方法・基準）> 予習と課題発表、討議、レポート（本文7000字以上）の総合で評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書神学特講Ⅱ a		小友 聡	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 雅歌成立後のユダヤ教団の雅歌解釈について学ぶ。			
＜到達目標＞ 雅歌が正典としてどのように読まれたか、その驚くべき解釈を知る。			
＜授業の概要＞ 雅歌のタルグム（アラム語訳）を英訳で読み、初期ユダヤ教の雅歌解釈についてじっくり学ぶ。			
＜履修条件＞ タルグムを英訳で読むが、マソラやギリシア語訳とも比較するので、ヒブル語履修者が望ましい。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 雅歌とはどういう書か 第3回 雅歌の字義的解釈について 第4回 雅歌の比喩的解釈について 第5回 雅歌のタルグムについて 第6回 雅歌1章 第7回 雅歌2章 第8回 雅歌3章 第9回 雅歌4章 第10回 「聖書協会共同訳」の雅歌について 第11回 雅歌5章 第12回 雅歌6章 第13回 雅歌7章 第14回 雅歌8章 第15回 総括			
＜準備学習等の指示＞ 毎回、雅歌のタルグム英訳をきちんと読み、マソラ本文の読みとの違いを把握すること。			
＜テキスト＞ The Targum of Canticles (the Aramaic Bible), translated, with a critical introduction, apparatus, and notes by Philip S. Alexander, 2003. コピーを用いる。			
＜参考書・参考資料等＞ その都度、指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 雅歌のタルグム英訳を講読するので、発表と授業への貢献度で評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書神学特講Ⅱ b		大住 雄一	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 律法のテキストを手がかりに、聖書神学的にテキストを読むことの意味を考える。			
＜到達目標＞ 聖書神学の神学的前提と手法を身に付ける。			
＜授業の概要＞ 律法のテキストの特徴を講義する。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第1回：律法とは何か 第2回：律法の文学的構造 第3回：律法の意味 第4回：律法と福音 第5回：アブラハムと律法 第6回：ダビデと霊の見分け 第7回：モーセと律法 第8回：ダビデの契約 第9回：ヤコブの律法 第10回：申命記の律法 第11回：祭司の律法 第12回：「モーセ五書」はなぜ「律法」か 第13回：ヤーウィストと律法 第14回：契約の書と律法 第15回：まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 律法に関する基本書籍を読む。			
＜テキスト＞ 授業の中で指示する。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 与えられた課題の発表で評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		
旧約聖書学演習Ⅰa	小友 聡	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<授業のテーマ> 旧約聖書学の専門書を読み、旧約聖書の諸問題について考察する。		
<到達目標> ヒブル語を履修していない人、聖書学専攻でない人でも旧約聖書をじっくり学ぶことができる。		
<授業の概要> 前期は、並木浩一著『批評としての旧約聖書』（著作集第2巻）を読み、旧約思想全般について学ぶ。		
<履修条件>		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 「初期イスラエルにおける契約の理解」 第3回 「法・正義・義」 第4回 「人は想像力なしには生きられない」 第5回 「アモスのイメージ」 第6回 「ゲルハルト・フォン・ラートの神学的自己理解と『創世記註解』」 第7回 「ヘッシェルの預言者論に寄せて」 第8回 「ヨブ記からの問いかけ」 第9回 「旧約聖書における女性」 第10回 「旧約聖書における身体性」 第11回 「人間の自由と尊厳」 第12回 「大貫隆著『世の光イエス』への・からのコメント」 第13回 「イエスの覚醒体験とは何であったか」 第14回 「内田芳明著『ヴェーバー『古代ユダヤ教』の研究』を読む」 第15回 総括		
<準備学習等の指示> 毎回担当者に各章の内容報告をしていただき、それに基づいて討議する。		
<テキスト> 並木浩一『批評としての旧約聖書』（並木浩一著作集第2巻）、日本キリスト教団出版局、4,000円		
<参考書・参考資料等> その都度、指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への積極性、また学期末の提出レポート（約6000字）によって評価する。		

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書学演習Ⅰb		小友 聡	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 旧約聖書学の専門書を読み、旧約聖書の諸問題について考察する。			
＜到達目標＞ ヒブル語を履修していない人、聖書学専攻でない人でも旧約聖書をじっくり学ぶことができる。			
＜授業の概要＞ 後期は、魯恩碩著『旧約文書の成立背景を問う』を読み、捕囚後の旧約思想の変遷について学ぶ。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 プロローグ、五書における歴史批判的研究の歴史（第1節） 第3回 同（第2節） 第4回 同（第3－4節） 第5回 「契約の書」における捕囚期以後ユダヤ社会の構造 第6回 旧約聖書における審判思想の歴史的発展過程についての考察 第7回 申命記主義的歴史書とは何か 第8回 エレミヤ書の「申命記主義的編集」に関する一考察 第9回 Qumran 共同体における貧者の神学 第10回 詩編における貧者の神学（第1－2節） 第11回 同（第3節） 第12回 同（第4－5節） 第13回 貧者の神学の社会経済的背景に対する考察 第14回 エピローグ 第15回 総括			
＜準備学習等の指示＞ 毎回担当者に内容報告をしていただき、それに基づいて討議する。			
＜テキスト＞ 魯恩碩『旧約文書の成立背景を問う』、日本キリスト教団出版局、4000円			
＜参考書・参考資料等＞ その都度、指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表と授業への積極性、また学期末の提出レポート（約6000字）で評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
アラム語 a		佐藤 泉	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞通年での履修が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞旧約聖書原典の一部はアラム語で書かれており、古代訳の中にはアラム語訳旧約聖書のタルグムがある。そのようなアラム語のテキストを読むためのアラム語文法の基礎を学ぶ。			
＜到達目標＞①アラム語文法の基礎を身につける。②身につけたアラム語文法の基礎を生かし、辞書も用いながら、聖書のアラム語のテキストや古代訳の一つであるタルグムを読むことができるようになる。			
＜授業の概要＞聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（創世記31：47・エレミヤ10：11・エズラ4：8－24・5：1－17など）、アラム語文法を学ぶ。			
＜履修条件＞ヒブル語履修済みであることが望ましい。			
＜授業計画＞ 第1回：序 アラム語について、言語グループ、時代区分などを話す。 第2回：創世記31：47を読みつつ、アラム語の名詞・形容詞を学ぶ。 第3回：エレミヤ10：11を読みつつ、動詞のPeal形の完了・未完了を学ぶ。 第4回：エズラ4：8－24の講読(1) 不規則変化の名詞について学ぶ。 第5回：エズラ4：8－24の講読(2) 動詞のHapel形の完了を学ぶ。 第6回：エズラ4：8－24の講読(3) 動詞のPeal形の分詞、Hitpeel形の完了・未完了を学ぶ。 第7回：エズラ4：8－24の講読(4) 動詞のPael形の完了・未完了、Hapel形の未完了を学ぶ。 第8回：エズラ4：8－24の講読(5) 動詞のHapel形の分詞を学ぶ。 第9回：エズラ4：8－24の講読(6) 動詞のPael形・Hitpeel形・Hitpaal形の分詞を学ぶ。 第10回：エズラ4：8－24の講読(7) 二根字動詞のPeal形と動詞の不定詞・命令を学ぶ。 第11回：エズラ5：1－17の講読(1) 前置詞と代名詞語尾を学ぶ。 第12回：エズラ5：1－17の講読(2) 二根字動詞のHapel形を学ぶ 第13回：エズラ5：1－17の講読(3) 二根字動詞のHitpeel形を学ぶ。 第14回：エズラ5：1－17の講読(4) Pê Yôd 動詞の変化を学ぶ。 第15回：エズラ5：1－17の講読(5) Pê Nûn 動詞の変化を学ぶ。			
＜準備学習等の指示＞講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。			
＜テキスト＞Biblia Hebraica Stuttgartensia； Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition			
＜参考書・参考資料等＞左近義慈編著、本間敏雄改訂増補『ヒブル語入門』[改訂増補版] 教文館、2011； William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971； Gustaf Dalman, Grammatik des jüdisch-palästinischen Aramäisch, Darmstadt：Wissenschaftliche Buchgesellschaft，1960； Gustaf Dalman, Aramäisch-Neuhebräisches Handwörterbuch, Göttingen：E. Pfeiffer, 1938； Marcus Jastrow, A dictionary of Targumim, the Talmud Babli and Yerushalmi, and the Midrashic literature v1, v2, New York: Pardes, 1950			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
アラム語 b		佐藤 泉	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>通年での履修が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ>旧約聖書原典の一部はアラム語で書かれており、古代訳の中にはアラム語訳旧約聖書のタルグムがある。そのようなアラム語のテキストを読むためのアラム語文法の基礎を学ぶ。			
<到達目標>①アラム語文法の基礎を身につける。②身につけたアラム語文法の基礎を生かし、辞書も用いながら、聖書のアラム語のテキストや古代訳の一つであるタルグムを読むことができるようになる。			
<授業の概要>聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（ダニエル書）、アラム語文法の学びを継続する。さらに、エレミヤ書などのタルグムの講読もする。（箇所は未定。授業中に指示する。）			
<履修条件>ヒブル語履修済みであることが望ましい。			
<授業計画> 第1回：ダニエル書の緒論的知識を確認し、前期の文法の復習をしつつ、ダニエル書の講読に備える。 第2回：ダニエル書の講読(1) Pê' ālep 動詞の Peal 形を学ぶ。 第3回：ダニエル書の講読(2) Pê' ālep 動詞の Hapel 形を学ぶ。 第4回：ダニエル書の講読(3) 動詞の変化で字位転換が起こる場合について学ぶ。 第5回：ダニエル書の講読(4) Lāmed' ālep・Lāmed Hê 動詞の変化を学ぶ。 第6回：ダニエル書の講読(5) 二重' ayin 動詞の Peal 形を学ぶ。 第7回：ダニエル書の講読(6) 二重' ayin 動詞の Hopal 形を学ぶ。 第8回：ダニエル書の講読(7) 代名詞語尾付きの動詞の変化を学ぶ。 第9回：ダニエル書の講読(8) 喉音を含む動詞について学ぶ。 第10回：ダニエル書の講読(9) 特殊な変化をする動詞について学ぶ。 第11回：エレミヤ書の緒論的知識とバビロニア方式の母音記号を確認し、タルグムの講読に備える。 第12回：タルグムの講読(1) バビロニア方式の母音記号で読むことに慣れる。 第13回：タルグムの講読(2) タルグムのアラム語の動詞の変化を学ぶ。 第14回：タルグムの講読(3) アラム語文法を全体的に思い出しつつ読む。 第15回：タルグムの講読(4) 原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。			
<準備学習等の指示>講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。			
<テキスト>Biblia Hebraica Stuttgartensia； Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition			
<参考書・参考資料等>左近義慈編著、本間敏雄改訂増補『ヒブル語入門』[改訂増補版] 教文館、2011； William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971； Gustaf Dalman, Grammatik des jüdisch-palästinischen Aramäisch, Darmstadt：Wissenschaftliche Buchgesellschaft，1960； Gustaf Dalman, Aramäisch-Neuhebräisches Handwörterbuch, Göttingen：E. Pfeiffer, 1938； Marcus Jastrow, A dictionary of Targumim, the Talmud Babli and Yerushalmi, and the Midrashic literature v1, v2, New York: Pardes, 1950			
<学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
修士論文指導演習 旧約神学Ⅰ		大住 雄一 小友 聡	＜担当形態＞ 複数
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 翌年度前期末に修士論文を提出しようとする前期課程1年次生の論文執筆の指導と情報交換を行う。			
＜到達目標＞ 修士課程修了にふさわしい論文が書けるようになる。			
＜授業の概要＞ 論文を執筆することの意味とプロセスを解説し、テキスト研究及び二次文献の検索を行う。 毎回の授業は2名の教員が共に責任を負うが、主にそれぞれ以下の分野を担当する。 大住雄一：律法、預言者関係 小友聡：黙示文学、知恵文学関係			
＜履修条件＞ 2020年9月に旧約に関する修士論文を提出する予定である者は、参加すること。			
＜授業計画＞ 第1回：導入 論文執筆の意味 第2回：課題の見いだし方 律法関係 第3回：課題の見いだし方 預言者関係 第4回：課題の見いだし方 文学関係 第5回：テキスト翻訳 律法関係 第6回：テキスト翻訳 預言者関係 第7回：テキスト翻訳 文学関係 第8回：テキストの構造解明 律法関係 第9回：テキストの構造解明 預言者関係 第10回：テキストの構造解明 文学関係 第11回：辞書、コンコルダンスの使い方 第12回：二次文献の検索方法 第13回：暫定的な文献表の作成 第14回：二次文献の使い方 第15回：方法を使いこなす			
＜準備学習等の指示＞ 毎回割り当てられた課題を発表する準備をすること。			
＜テキスト＞ ビブリア・ヘブライカほか、論文執筆者別に指示する。			
＜参考書・参考資料等＞ 毎回必要な文献を指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 割り当てられた課題の発表（50%）、討論への貢献（50%）を総合して評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
修士論文指導演習 旧約神学Ⅱ		大住 雄一 小友 聡	＜担当形態＞ 複数
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 今年度前期末に修士論文を提出しようとする前期課程二年次生の論文執筆の指導と情報交換を行う。			
＜到達目標＞ 修士課程修了に相応しい論文を執筆、完成させる。			
＜授業の概要＞ 論文の準備研究を各自が発表し、参加者がこれについて質問し、意見を述べる。 毎回の授業は2名の教員が共に責任を負うが、主にそれぞれ以下の分野を担当する。 大住雄一：律法、預言者関係 小友聡：黙示文学、知恵文学関係			
＜履修条件＞ 本年9月に旧約に関する修士論文提出予定者は参加すること。			
＜授業計画＞ 第1回：導入 論文執筆の手順 第2回：問題設定 律法関係 第3回：問題設定 預言者関係 第4回：問題設定 文学関係 第5回：研究史 律法関係 第6回：研究史 預言者関係 第7回：研究史 文学関係 第8回：主要テーゼ 律法関係 第9回：主要テーゼ 預言者関係 第10回：主要テーゼ 文学関係 第11回：論証過程 律法関係 第12回：論証過程 預言者関係 第13回：論証過程 文学関係 第14回：結論 第15回：最終的な質疑応答			
＜準備学習等の指示＞ 割り当てられた課題を発表できるようにしておくこと。			
＜テキスト＞ 論文執筆者別に指示する。			
＜参考書・参考資料等＞ 毎回必要な文献を指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 学期末には暫定的に可否のみ通知するが、最終的に提出論文の成績が本演習の成績となる。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
新約聖書学特講Ⅰ a		中野 実	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 新約聖書をめぐる神学的諸問題			
＜到達目標＞ 新約聖書をめぐる神学的諸問題についてより深く知り、自分自身の判断、理解を確立できるようになる。			
＜授業の概要＞ 担当者の書いた論文を分担しながら読み、また担当者自身による解説をとおして、新約聖書をめぐる諸問題について学ぶ。			
＜履修条件＞ 通年で履修することが好ましい。そうでない場合は、事前に担当者と相談すること。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 新約聖書神学の諸問題 導入的講義 第3回 福音書研究 論文「救いと蹟きの間」を読む。 第4回 福音書研究 福音書とは何か？ 歴史、物語、信仰。 第5回 福音書研究の方法論。 歴史批評、物語批評。 第6回 史的イエス研究 チャールズワーズ『これだけは知っておきたい史的イエス』 第7回 史的イエス研究 論文「イエスとレプラの清め」を読む。 第8回 翻訳問題 論文『ツァーラアト』『レプラ』をどう翻訳するかを読む。 第9回 史的イエス研究 「主のいのり」に関する論文を読む。 第10回 史的イエス研究はなぜ必要か？ 議論 第11回 旧約聖書と新約聖書 論文「小さな癒しの物語の中の大きな救いの物語」を読む。 第12回 旧約聖書と新約聖書 論文「正典批評 B 方法論の適用例」を読む。 第13回 新約聖書における旧約聖書の役割と意義 議論 第14回 史的イエス研究、福音書研究の諸問題のまとめ 第15回 前期のまとめと後期への方向付け			
＜準備学習等の指示＞自分の分担の論文のみならず、課題となった論文をしっかりと読む努力をし、新約聖書に関する理解を深める。			
＜テキスト＞旧・新約聖書、ギリシャ語新約聖書、および担当者の準備した論文コピー。			
＜参考書・参考資料等＞必要に応じてクラスで指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞クラスへの積極的参加度（質問、コメントなど）、分担発表（40％）と（4000～5000字）の期末レポート（60％）によって総合的に評価する。ただし、出席が三分の二に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
新約聖書学特講Ⅰb		中野 実	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 新約聖書をめぐる神学的諸問題			
＜到達目標＞ 新約聖書をめぐる神学的諸問題についてより深く知り、自分自身の判断、理解を確立できるようになる。			
＜授業の概要＞ 担当者の書いた論文を分担しながら読み、また担当者自身の解説をとおして、新約聖書をめぐる諸問題について学ぶ。			
＜履修条件＞ 通年で履修することが好ましい。そうでない場合は、事前に担当と相談すること。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 論文「高いところからの力に覆われて」を読む。 第3回 新約聖書における聖霊論についての議論 第4回 論文「キリスト教の洗礼の起源に関する一考察」を読む。 第5回 新約聖書における洗礼とは？ 第6回 論文「聖餐の歴史的三つのルーツを探る」を読む。 第7回 新約聖書における聖餐とは？ 第8回 論文「見よ、私は最後のものを最初のもののように創る」を読む。 第9回 新約聖書における創造論と救済論の関係について 第10回 論文「マルティン・ヘンゲル『救済史』を読む」を読む。 第11回 論文「全信徒祭司性：その聖書の基礎づけの再検討」を読む。 第12回 論文「正典批評」を読む。 第13回 論文「聖書正典と信仰の規範：その相互作用について」 第14回 正典批評とは？議論 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞自分の分担の論文のみならず、課題となった論文をしっかりと読む努力をし、新約聖書に関する理解を深める。			
＜テキスト＞旧・新約聖書、ギリシャ語新約聖書、および担当者の準備した論文コピー。			
＜参考書・参考資料等＞必要に応じてクラスで指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞クラスへの積極的参加度、分担発表（40％）と（4000～5000字）の期末レポート（60％）によって総合的に評価する。ただし、出席が三分の二に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
新約聖書学特研Ⅰa		焼山 満里子	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ テサロニケの信徒への手紙一、二の釈義を通して初期キリスト教の形成、パウロ伝道、神学について学ぶ。			
＜到達目標＞ パウロの真正書簡、第二書簡の違いをふまえてテサロニケ両書簡、パウロの伝道活動、神学を理解する。			
＜授業の概要＞ テサロニケの信徒への手紙一、二の釈義。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 テサロニケー1：1-10 第3回 テサロニケー2：1-12 第4回 テサロニケー2：13-2：20 第5回 テサロニケー3：1-13 第6回 テサロニケー4：1-12 第7回 テサロニケー4：13-5-3 第8回 テサロニケー5：4-15 第9回 テサロニケー5：16-28 第10回 テサロニケ二1：1-12 第11回 テサロニケ二2：1-12 第12回 テサロニケ二2：13-3：5 第13回 テサロニケ二3：6-18 第14回 テサロニケー、二の比較 終末論 第15回 テサロニケー、二の比較 真正性			
＜準備学習等の指示＞ 各回、G.フィー『新約聖書の釈義』および注解書に従って釈義して出席のこと。			
＜テキスト＞ G.フィー『新約聖書の釈義』			
＜参考書・参考資料等＞ 各自使いやすい注解書。適宜指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞毎回の授業参加と期末レポートによって評価する。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
新約聖書学特研Ⅰb		焼山 満里子	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 新約聖書の終末思想を特にパウロ書簡から学ぶ。			
＜到達目標＞ パウロの思想を理解する			
＜授業の概要＞ パウロの終末論について、テキスト、研究書をてがかりに理解する。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 『パウロの中心思想』 第3回 『終末論の系譜』Ⅸ章 第4回 『終末論の系譜』Ⅷ章 第5回 『古代都市のキリスト教』Ⅰ章 第6回 『古代都市のキリスト教』Ⅱ章 第7回 『古代都市のキリスト教』Ⅲ章 第8回 『古代都市のキリスト教』Ⅳ章 第9回 『古代都市のキリスト教』Ⅴ章 第10回 『古代都市のキリスト教』Ⅵ章 第11回 『キリスト教とローマ帝国』Ⅰ章 第12回 『キリスト教とローマ帝国』Ⅱ章 第13回 『キリスト教とローマ帝国』Ⅲ章 第14回 総括1、終末論とは何か 第15回 総括2、初期キリスト教運動とは何か			
＜準備学習等の指示＞ 毎回読むテキストを予習し、発表の回にはプレゼンし理解を深める。			
＜テキスト＞ 適宜指示する。			
＜参考書・参考資料等＞ 適宜指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞毎回の授業参加と期末レポートによって評価する。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
新約聖書原典釈義Ⅰ a		遠藤 勝信	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>原則として通年（a, b）で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> ヨハネによる福音書 13：31～16:06 までの原典釈義。ギリシア語新約聖書のテキストを歴史的、文学的、神学的文脈に基づいて解釈する方法を学ぶ。			
<到達目標> 学生が、新約聖書学の基礎（研究史、釈義の方法論）を修得し、テキストと真摯に向き合う姿勢を学ぶ。			
<授業の概要> はじめに近年のヨハネ福音書研究の動向（研究史、方法論）を概観し、釈義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。釈義の正確さと共に慎重な議論の仕方、神学的掘り下げについて学び合う。			
<履修条件> 新約ギリシャ語原典テキスト読解力を有すること。ギリシャ語中級文法の知識があることが望ましい。			
<授業計画> Ⅰ. 講義を中心に 第01回 研究史を概観し、近年の研究状況と釈義の諸問題を学ぶ。 第02回 ギリシャ語新約聖書本文批評の実際。 第03回 テキストの文学批評の実際。 第04回 テキストと歴史批評の実際。 Ⅱ. 演習（参加者による釈義の発表とディスカッション）を中心に 第05回 ヨハネ13：31～38の原典釈義 第06回 ヨハネ14：01～07の原典釈義 第07回 ヨハネ14：08～14の原典釈義 第08回 ヨハネ14：15～21の原典釈義 第09回 ヨハネ14：22～26の原典釈義 第10回 ヨハネ14：27～31の原典釈義 第11回 ヨハネ15：01～08の原典釈義 第12回 ヨハネ15：09～17の原典釈義 第13回 ヨハネ15：18～27の原典釈義 第14回 ヨハネ16：01～06の原典釈義 Ⅲ. 総括 第15回 釈義演習の総括的な反省と展望。			
<準備学習等の指示> クラスで取り上げる箇所のギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。			
<テキスト> Nestle-Aland (28 th ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i>			
<参考書・参考資料等> R・ブルトマン著、杉原助訳『ヨハネの福音書』、2005年 R・A・カルベッパ著、伊東寿泰訳『ヨハネ福音書文学的解剖』2005年 R・ボウカム、浅野淳博訳『イエスとその目撃者たち』2011年 C.S. Keener, <i>The Gospel of John- A Commentary vol.1</i> , 2003.			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業における発表と期末試験（指定されたテキストについての釈義ペーパー [6,000～8,000文字]）。釈義ペーパーに、新約聖書学の基礎的理解及びテキストへの真摯な取り組みが反映されているかを評価。尚、出席が三分の二を満たさない場合、期末試験の受験を許可しない。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
新約聖書原典釈義 I b		遠藤 勝信	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>原則として通年（a, b）で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> ヨハネの黙示録 21：15～22：21、及び 01：01～02:07 までの原典釈義。ギリシア語新約聖書のテキストを歴史的、文学的、神学的文脈に基づいて解釈する方法を学ぶ。			
<到達目標> 学生が、新約聖書学の基礎（研究史、釈義の方法論）を修得し、テキストと真摯に向き合う姿勢を学ぶ。			
<授業の概要> はじめに近年のヨハネ黙示録研究の動向（研究史、方法論）を概観し、釈義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。釈義の正確さと共に慎重な議論の仕方、神学的掘り下げについて学び合う。			
<履修条件> 新約ギリシア語原典テキスト読解力を有すること。ギリシア語中級文法の知識があることが望ましい。			
<授業計画> I. 講義を中心に 第01回 イントロダクション。黙示録の文学ジャンル。 第02回 黙示録を読む前に（その1）：黙示録の周辺、背景理解。 第03回 黙示録を読む前に（その2）：構造と構成、神学、他。 第04回 黙示録1～21章14節までを概観し、釈義の営みにおける課題と観点を確認する。 II. 演習（参加者による発表とディスカッション）を中心に 第05回 黙示録21：15～21の原典釈義 第06回 黙示録21：22～27の原典釈義 第07回 黙示録22：01～05の原典釈義 第08回 黙示録22：06～09の原典釈義 第09回 黙示録22：10～15の原典釈義 第10回 黙示録22：16～21の原典釈義 第11回 黙示録01：01～06の原典釈義 第12回 黙示録01：07～11の原典釈義 第13回 黙示録01：12～20の原典釈義 第14回 黙示録02：01～07の原典釈義 III. 総括 第15回 釈義演習の総括的な反省と展望。			
<準備学習等の指示> クラスで取り上げる箇所のギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。			
<テキスト> Nestle-Aland (28 th ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i>			
<参考書・参考資料等> 佐竹明著『ヨハネの黙示録』（上・下巻）2009年 R・ボウカム著、飯郷友康・小河陽訳『ヨハネ黙示録の神学』2001年 R. Bauckham, <i>The Climax of Prophecy</i> , 1993. G. Beale, <i>The Book of Revelation</i> (NIGTC), 1999. D. Aune, <i>Revelation 6-16</i> (WBC), 1997. S. Smalley, <i>The Revelation of John</i> (IVP), 2005. 他、クラスで随時紹介。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業における発表と期末試験（指定されたテキストについての釈義ペーパー [6,000～8,000 文字]）。釈義ペーパーに、新約聖書学の基礎的理解及びテキストへの真摯な取り組みが反映されているかを評価。尚、出席が三分の二を満たさない場合、期末試験の受験を許可しない。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
修士論文指導演習　新約神学Ⅰ		中野　実 焼山　満里子	＜担当形態＞ 複数
後期・２単位		＜登録条件＞　新約神学で修論を書く予定の学生	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）		
＜授業のテーマ＞　来年度に修士論文を提出予定の、新約聖書神学専攻の大学院一年生のための演習。			
＜到達目標＞　適切なテーマを選定することができ、論文を書くための技術を身につけることができる。			
＜授業の概要＞　論文を書くとはどういうことかを学びつつ、各自その課題を進めていく。毎回、学生の発表を中心に進められていく。全体としては二人の教員が共に責任を負うが、それぞれの指導担当学生との個別指導も織り交ぜながら行なわれる。			
＜履修条件＞　2020年９月に修論を提出予定の学生			
＜授業計画＞ 第１回　オリエンテーション 第２回　論文を書くとは？ 第３回　各自の課題、問題探し 第４回　その課題、問題に関連するテキスト探し 第５回　課題テキストについて深く学ぶ 第６回　テーマの選定、見直し、決定 第７回　研究のための方法およびツールについて 第８回　資料、先行研究探し 第９回　先行研究の学び 第１０回　先行研究の学びとそこからの展開 第１１回　問題設定、テーゼへ向かって 第１２回　問題設定、テーゼの吟味 第１３回　題名、目次作成へ向かって 第１４回　議論の組み立てへ向かって 第１５回　まとめ			
＜準備学習等の指示＞論文はモノログではないので、教師、学生との対話を大事にすること。			
＜テキスト＞必要に応じて、指示する。			
＜参考書・参考資料等＞担当者は必要に応じて、指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞クラスへの出席、課題への積極的参加度などによって総合的に評価する。テーマの選定、課題テキストの学び、先行研究の学び、論文を書く技術をみがくことなどに関して十分な努力をしているかどうかの評価の指標となる。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
修士論文指導演習　新約神学Ⅱ		中野　実 焼山　満里子	<担当形態> 複数
前期・2単位		<登録条件>　新約専攻の大学院2年生	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）		
<授業のテーマ>　今年度前期末に修論を提出予定の学生のための演習。			
<到達目標>　各自が修士論文を進めていくために必要な手助けが与えられ、論文を仕上げるができる。			
<授業の概要>　論文の執筆段階における、各自の研究発表が中心となる。指導教授および参加学生の質問や意見をききつつ、論文を仕上げていく。			
<履修条件>　2019年9月に新約聖書神学専攻で修士論文を提出予定の学生			
<授業計画> 第1回　オリエンテーション 第2回　問題設定の点検 第3回　資料の点検 第4回　題名、目次、議論の枠組みを整える。 第5回　より明確な問題設定の獲得 第6回　（仮）序論の執筆 第7回　研究史に関する発表 第8回　研究史に基づく展開 第9回　論文のテーゼ、発表 第10回　論文のテーゼの点検 第11回　議論の組み立て　発表 第12回　議論の組み立て　点検 第13回　結論を書く 第14回　論文のフォーマットの整理、注、文献表など。 第15回　まとめ			
<準備学習等の指示>クラスで指示する。			
<テキスト>必要に応じて、指示する。			
<参考書・参考資料等>必要に応じて、指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>クラスへの出席、課題への参加度などによって、総合的に評価する。修士論文を仕上げていく課題にどれほど積極的に取り組んでいるかが評価の指標となる。			

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学特講Ⅱ a		須田 拓	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校・高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に定める科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> キリスト論の諸相を学ぶことを通して、現代神学の議論に触れ、教会が宣べ伝えてきた福音についての深い教義学的理解を持つことを目指す。			
<到達目標> キリストとはどなたかという信仰の重要なテーマについて、現代神学にどのような議論があるのかを知り、自らこの問題について考えることができるようになる。			
<授業の概要> キリスト論について講義する。論点を整理した上で、現代の様々な神学者の議論を概観し、あるべきキリスト論の姿を模索する。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 キリスト論の論点(1) 上からのキリスト論と下からのキリスト論 第3回 キリスト論の論点(2) 神性と人性の関係（アレキサンドリア型とアンティオケ型） 第4回 上からのキリスト論 カール・バルトの場合 第5回 下からのキリスト論 ヴォルフハルト・パネンベルクの場合とその変遷 第6回 上からのキリスト論と下からのキリスト論(1) コリン・ガントンの場合 第7回 上からのキリスト論と下からのキリスト論(2) エーミル・ブルンナーの場合 第8回 上からのキリスト論と下からのキリスト論(3) その他の神学者の場合 第9回 中間総括 第10回 神性と人性(1) カール・バルトの場合（アンヒュポスタシアとエンヒュポスタシア） 第11回 神性と人性(2) ヴォルフハルト・パネンベルクの場合 第12回 神性と人性(3) イングランド・ピューリタンの神学者の場合 第13回 神性と人性(4) コリン・ガントンの場合 第14回 キリスト論に関するその他の論点について 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 前回までの復習をした上で、授業で扱われるテーマについて、自分なりの考えをまとめてみる			
<テキスト> 特になし			
<参考書・参考資料等> 授業において、必要に応じて指示する			
<学生に対する評価（方法・基準）> レポート（4,000字程度）によって評価する			

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学特講Ⅱ b		須田 拓	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校・高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に定める科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 終末論の諸相を学ぶことを通して、現代神学の議論に触れ、深い教義学の理解を持つことを目指す。			
＜到達目標＞ 終末論の重要なテーマについて、現代神学にどのような議論があるのかを知り、自らこの問題について考えることができるようになる。			
＜授業の概要＞ 終末論について講義する。論点を整理した上で、現代の様々な神学者の議論を概観し、あるべき終末論の姿を模索する。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 終末論の論点(1) 個人的終末論と宇宙的終末論 第3回 終末論の論点(2) 現在の終末論と将来的終末論 第4回 終末論の論点(3) 時間と永遠 第5回 個人的終末論と宇宙的終末論(1) ユルゲン・モルトマンの場合 第6回 個人的終末論と宇宙的終末論(2) ヴォルフハルト・パネンベルクの場合 第7回 個人的終末論と宇宙的終末論(3) その他の神学者の場合 第8回 中間総括 第9回 将来的終末論の回復(1) ヴォルフハルト・パネンベルクの場合 第10回 将来的終末論の回復(2) ユルゲン・モルトマンの場合 第11回 時間と永遠(1) カール・バルトの場合 第12回 時間と永遠(2) ヴォルフハルト・パネンベルクの場合 第13回 時間と永遠(3) ユルゲン・モルトマンの場合 第14回 終末論に関するその他の論点について 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 前回までの復習をした上で、授業で扱われるテーマについて、自分なりの考えをまとめてみる			
＜テキスト＞ 特になし			
＜参考書・参考資料等＞ 授業において、必要に応じて指示する			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ レポート（4,000字程度）によって評価する			

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学特研Ⅰ		神代 真砂実	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 特になし。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 2001 年以降、つまり、今世紀に入ってから現れた組織神学関係の書物、あるいは、哲学書を精読し、内容を批判的に吟味しながら、組織神学的思考力を鍛える。			
<到達目標> ①文献の内容について深い理解を得る。②その内容を思想史的文脈や現代の課題との関連の中で考えられるようになる。③文献を批判的に読むことで、神学的な主体性を獲得する。			
<授業の概要> 2015 年に出版されたもので、過去数十年の三位一体論の議論と批判的に対峙しようとしている K. Sonderegger, <i>Systematic Theology</i> , vol. 1 から、第一部と第二部を読み、議論を重ねながら、批判的に内容の理解を深めていく。			
<履修条件> 英語のテキストを毎回 10 頁程度読む覚悟のある者。なお、発表に高いレベルを求めるので、最低 4 名の履修者が得られない場合には、開講しない。			
<授業計画> 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 テキスト、 pp. 3-9. (Part One: The One God, § 1. The Perfect Oneness of God／1) 第 3 回 テキスト、 pp. 10-22. (Part One: The One God, § 1. The Perfect Oneness of God／2) 第 4 回 テキスト、 pp. 23-30. (Part One: The One God, § 2. The Divine Oneness as Foundational Perfection／1) 第 5 回 テキスト、 pp. 30-36. (Part One: The One God, § 2. The Divine Oneness as Foundational Perfection／2) 第 6 回 テキスト、 pp. 36-45. (Part One: The One God, § 2. The Divine Oneness as Foundational Perfection／3) 第 7 回 テキスト、 pp. 47-52. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord's Hiddenness: His Omnipresence／1) 第 8 回 テキスト、 pp. 52-66. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord's Hiddenness: His Omnipresence／2) 第 9 回 テキスト、 pp. 66-77. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord's Hiddenness: His Omnipresence／3) 第 10 回 テキスト、 pp. 77-85. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord's Hiddenness: His Omnipresence／4) 第 11 回 テキスト、 pp. 85-93. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord's Hiddenness: His Omnipresence／5) 第 12 回 テキスト、 pp. 93-106. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord's Hiddenness: His Omnipresence／6) 第 13 回 テキスト、 pp. 106-115. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord's Hiddenness: His Omnipresence／7) 第 14 回 テキスト、 pp. 115-131. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord's Hiddenness: His Omnipresence／8) 第 15 回 テキスト、 pp. 131-147. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord's Hiddenness: His Omnipresence／9)			
<準備学習等の指示> テキストに事前に目を通すことは大前提であるが、さらに内容や関連事項についても自分で調べ、考えてくることが重要である。			
<テキスト> 担当者が用意する Katherine Sonderegger, <i>Systematic Theology</i> , vol. 1 からのプリント。			
<参考書・参考資料等> 授業の中で適宜、指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表・授業への参加度・期末レポート（本文 8,000 字以上）の総合による。			

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学演習Ⅱ a		神代 真砂実	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 組織神学演習Ⅱ b との通年履修が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校・高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 組織神学の代表的文献であるカール・バルトの『教会教義学』の精読を通して、組織神学的思考を養う。また、20 世紀の代表的神学者であるバルトの神学思想の特色について基本的な事柄を理解する。			
<到達目標> ①高度な神学書の読解力を身に着ける。②バルトの神学的思惟の特徴を理解する。③バルトを通して教義学の特定の課題についての総合的な理解を身に着ける。			
<授業の概要> バルトの『教会教義学』から創造論中の倫理学、特に 55 節（「生への自由」）に展開される生命および生活にかかわる議論を学ぶ。テキストを精読し、その内容についての議論を重ね、また、適宜、解説を加えることで理解を深める。			
<履修条件> 難しい学びに挑戦し、自分の可能性を広げようとする意欲を持っていること。			
<授業計画> 1. オリエンテーション 2. テキスト、3～23 頁（1. 生への畏敬①） 3. 同、23～34 頁（同②） 4. 同、34～47 頁（同③） 5. 同、47～55 頁（同④） 6. 同、55～70 頁（同⑤） 7. 同、70～92 頁（同⑥） 8. 同、92～107 頁（同⑦） 9. 同、107～130 頁（同⑧） 10. 同、130～143 頁（同⑨） 11. 同、143～154 頁（同⑩） 12. 同、155～175 頁（2. 生の保護①） 13. 同、175～192 頁（同②） 14. 同、192～212 頁（同③） 15. 同、212～224 頁（同④）			
<準備学習等の指示> 演習なので、必ずテキストをよく読んでから出席すること。			
<テキスト> カール・バルト、『教会教義学・創造論Ⅳ／3 創造者なる神の戒め〈Ⅲ〉』、吉永正義訳（新教出版社、オンデマンド）。			
<参考書・参考資料等> 授業の中で適宜、紹介する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度（30％）および小課題（70％）による。			

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学演習Ⅱ b		神代 真砂実	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 組織神学演習Ⅱ a との通年履修が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校・高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 前期と同じ。			
＜到達目標＞ 前期と同じ。			
＜授業の概要＞ 前期と同じ。			
＜履修条件＞ 前期と同じ。			
＜授業計画＞ 1. オリエンテーションおよびテキスト、224～237 頁（2. 生の保護⑤） 2. テキスト、237～248 頁（同⑥） 3. 同、248～263 頁（同⑦） 4. 同、263～282 頁（同⑧） 5. 同、282～303 頁（同⑨） 6. 同、304～329 頁（3. 働く生活①） 7. 同、329～348 頁（同②） 8. 同、349～364 頁（同③） 9. 同、364～380 頁（同④） 10. 同、380～393 頁（同⑤） 11. 同、393～414 頁（同⑥） 12. 同、414～428 頁（同⑦） 13. 同、428～450 頁（同⑧） 14. 同、450～471 頁（同⑨） 15. 同、471～489 頁（同⑩）、および一年の学びのまとめ			
＜準備学習等の指示＞ 前期と同じ。			
＜テキスト＞ 前期と同じ。			
＜参考書・参考資料等＞ 前期と同じ。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 前期と同じ。			

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学演習Ⅲ a		芳賀 力	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 通年で取ることが望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 教会論と終末論を教義学的に整理し、その理解を深める。			
＜到達目標＞ 前期はE.ブルンナーの教会論と信仰論を顧み、それとの対論を試みる。			
＜授業の概要＞ ブルンナーの教義学第三卷(上)を順番に読み、担当者の発表を踏まえて討論する。			
＜履修条件＞ 特になし。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション：ブルンナーのエクレシア論 第2回 第三部 第1章 教会と聖霊 第3回 第2章 エクレシアの基礎と本質 第4回 第3章 原始キリスト教のエクレシアとパウロ的なエクレシア理念 第5回 第4章 エクレシアから教会への発展 第6回 第5章 発展を遅延させた契機とエクレシア回復の試み 第7回 第6章 エクレシアの道具及び器としての教会 第8回 第7章 ヨーロッパにおける教会の危機 第9回 第8章 教会の新しい形態を求めて 第10回 第9章 使徒的信仰告白による教会の根本規定 第11回 第10章 信仰の前提としてのエクレシア 第12回 第11章 信仰と不信仰 第13回 第12章 聖書の証言による信仰 第14回 第13章 信仰の誤解 第15回 総括			
＜準備学習等の指示＞ テキストを前もって読んでおくこと。			
＜テキスト＞ E.ブルンナー『ブルンナー著作集第4巻 教義学Ⅲ上』近藤・大村訳、教文館、1998年			
＜参考書・参考資料等＞ 特になし			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 学期末にレポートを提出する。			

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学演習Ⅲ b		芳賀 力	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 通年で取ることが望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 前期に続いて、教会論と終末論を教義学的に整理し、その理解を深める。			
<到達目標> 後期はE.ブルンナーの聖化論と終末論を顧み、それとの対論を試みる。			
<授業の概要> ブルンナーの教義学第三卷(下)を順番に読み、担当者の発表を踏まえて討論する。			
<履修条件> 特になし。			
<授業計画> 第1回 第14章 信仰義認論 第2回 第15章 教会の信条 第3回 第16—18章 教理信仰と聖書信仰 第4回 第19—20章 再生と回心 第5回 第21章 聖化 第6回 第22—24章 愛の命令と律法、世にあるキリスト者、祈りの神学 第7回 第四部 第1章 希望としての信仰 第8回 同 第2章 不信仰からの異議 第9回 同 第3—4章 神の国と永遠の生命、歴史の意味と目標としての神の国 第10回 同 第5—6章 永遠と死 第11回 同 第7—8章 キリストのもとにあること、再臨 第12回 同 第9章 復活 第13回 同 第10章 万人の和解と世界審判 第14回 同 第11章 完成 第15回 総括			
<準備学習等の指示> テキストを前もって読んでおくこと。			
<テキスト> E.ブルンナー『ブルンナー著作集第5巻 教義学Ⅲ下』近藤・大村訳、教文館、1998年			
<参考書・参考資料等> 特になし			
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期末にレポートを提出する。			

組織神学専攻・組織神学関係			
信条学		芳賀 力	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 専攻に関係なく登録可。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 歴史的教会の生み出した諸信条の特色を学ぶ。また教義学の項目に沿って、直接信条の神学を学ぶ。			
<到達目標> 授業の前半で、まず古代教会の基本信条、次いで宗教改革期以後の代表的な信条の特色を把握する。授業の後半でロールスのテキストの各項目を一つずつ読み、実際に信条本文に触れながら、その神学的意味を理解する。			
<授業の概要> 前半は資料を配付し、講義を行う。後半は担当を決め、教義学の主題ごとに発題し、コメントしてもらう。			
<履修条件> 大学院博士課程前期に在籍している者は誰でも履修できる。			
<授業計画> 第1回：信条・信仰告白とは何かを押さえた上で、使徒信条を学ぶ。 第2回：ニケア・コンスタンティノポリス信条を学ぶ。またロールスのテキスト「啓示、神の言葉、伝統」の項目を読む。 第3回：アタナシオス信条を学ぶ。またロールスのテキスト「神の本性と三位一体論」の項目を読む。 第4回：カルケドン信条を学ぶ。またロールスのテキスト「創造と摂理」の項目を読む。 第5回：ルター大・小教理問答を学ぶ。またロールスのテキスト「人間と罪」の項目を読む。 第6回：アウグスブルク信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「恵みの契約と和解」の項目を読む。 第7回：ジュネーヴ教会信仰問答を学ぶ。またロールスのテキスト「キリスト論とカルヴァン主義的な外部」の項目を読む。 第8回：フランス信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「義認と信仰」の項目を読む。 第9回：第一・第二スイス信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「聖化と悔改め」の項目を読む。 第10回：スコットランド信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「選びと棄却」の項目を読む。 第11回：ハイデルベルク信仰問答を学ぶ。またロールスのテキスト「教会とそのしるし」の項目を読む。 第12回：ドルト信仰規準を学ぶ。またロールスのテキスト「御言葉と聖礼典」の項目を読む。 第13回：ウェストミンスター信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「神の言葉の二様態」の項目を読む。 第14回：バルメン宣言を学ぶ。またロールスのテキスト「洗礼」の項目を読む。 第15回：日本基督教団信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「聖餐」の項目を読む。			
<準備学習等の指示> 教室で渡す資料をよく整理し、保存しておくこと。担当者は分担してテキストをよく読むこと。			
<テキスト> 『信条集 前後篇』新教出版社、1994年。各自購入すること。またJ・ロールス『改革教会信仰告白の神学』一麦出版社、2009年。研究室にて割引価格で頒布する。			
<参考書・参考資料等> 信条に関する研究書を授業で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席と授業での発表、期末レポートを総合的に評価する。			

組織神学専攻・組織神学関係			
修士論文指導演習 組織神学Ⅰ		神代 真砂実	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 狭義の組織神学および実践神学の分野で修士論文を執筆する予定の者。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 修士論文執筆のために必要な技能を学ぶこと、および、修士論文の準備をすること。			
＜到達目標＞ ①組織神学の論文を書くとはどういうことか、そのために必要な技能や作業は何か、を身に着けること。②修士論文執筆に備えての基礎的準備作業（主要文献の読解等）を終えること。			
＜授業の概要＞ 前半では主に論文執筆の過程を学ぶ。後半では各自の修士論文の準備を進めて貰い、順番に報告・発表して貰う。			
＜履修条件＞ 2020 年度に修士論文提出予定の者は必修。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション——論文の基本的要件 第2回 発表①：各自の論文の主題について 第3回 論文作成の技法①：テキストの分析——全体的な内容の把握 第4回 論文作成の技法②：テキストの分析——構成を把握する 第5回 論文作成の技法③：テキストの分析——書き方を考える 第6回 論文作成の技法④：主題の決定・文献探しについて 第7回 論文作成の技法⑤：リサーチ・主張（テーゼ）の発見・目次の検討 第8回 論文作成の技法⑥：パラグラフ 第9回 発表②：修士論文の主題と文献について（1） 第10回 発表③：同（2） 第11回 発表④：内容の構想について（1） 第12回 発表⑤：内容の構想について（2） 第13回 発表⑥：内容の構想について（3） 第14回 発表⑦：修士論文の主題と文献表と基本構想（1） 第15回 発表⑧：同（2）			
＜準備学習等の指示＞ 授業をきちんと受けること・自分の研究を着実に進めること。			
＜テキスト＞ 担当者が用意するプリント。			
＜参考書・参考資料等＞ 泉忠司、『90分でコツがわかる！ 論文&レポートの書き方』（青春出版社）。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加度および発表による。			

組織神学専攻・組織神学関係			
修士論文指導演習 組織神学Ⅱ		神代 真砂実	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 狭義の組織神学および実践神学の分野で 学期末に修士論文を提出予定の者	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 修士論文の作成にあたり、適切な内容と形式について学ぶ。			
＜到達目標＞ 修士論文を完成・提出すること。			
＜授業の概要＞ 各自の学びの成果を順に報告して貰うことで内容を検討すると共に、論文の体裁を持つ短い文章 を書いて貰いながら、形式面での基本的技法を学ぶ。			
＜履修条件＞ 2019年9月に狭義の組織神学および実践神学の分野で修士論文を提出予定の者は必修。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション——修士論文の基本的要件の確認 第2回 各自の論文の主題と文献について① 第3回 各自の論文の主題と文献について② 第4回 各自の論文の主題と文献について③ 第5回 主要文献の読書報告① 第6回 主要文献の読書報告② 第7回 主要文献の読書報告③ 第8回 二次文献から学んだことについての報告① 第9回 二次文献から学んだことについての報告② 第10回 二次文献から学んだことについての報告③ 第11回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について① 第12回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について② 第13回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について③ 第14回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について④ 第15回 形式面の確認・提出の要領について			
＜準備学習等の指示＞ 最大限の時間と能力とを傾注すること。			
＜テキスト＞ 特になし。			
＜参考書・参考資料等＞ 特になし。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表による。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
教理史演習Ⅱ a		棚村 重行	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 組織神学分野専攻者の履修が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 「洗礼、聖餐、教会と職務－中世・宗教改革から現代まで」			
＜到達目標＞ 主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。			
＜授業の概要＞ 前期では「洗礼と聖餐」の教理の発展を扱う。先ずWCCの「リマ文書」の洗礼と聖餐の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。			
＜履修条件＞ 特にない。			
＜授業計画＞ 第1回 コースの紹介。履修者との導入討議 第2回 発表（一） 「リマ文書」の「洗礼」について。（学生2～3名） 第3回 発表（二） 「リマ文書」の「聖餐」について。（学生2～3名） 第4回 資料研究（一） 中世の洗礼と聖餐論1（第四ラテラノ公会議、その他公式教令文書） 第5回 資料研究（二） 同上 2（枢機卿カジェタン、S. プリエリアス、C. ヘーン） 第6回 資料研究（三） 宗教改革の洗礼と聖餐論1（ルターとルター派の「一致信条書」他） 第7回 資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」） 第8回 資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白。「ハイデルベルク信仰問答」） 第9回 資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他） 第10回 資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言） 第11回 資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代カトリックの諸教令など） 第12回 資料研究（九） ピューリタニズムの洗礼と聖餐論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」他。） 第13回 資料研究（十） メソディズムの洗礼と聖餐論（J.ウェスレーと「宗教箇条」） 第14回 資料研究（十一） 日本の諸教派の洗礼と聖餐論1（改革－長老派系、会衆派系、メソディスト系、バプテスト系、その他） 第15回 資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における洗礼と聖餐理解、まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。			
＜テキスト＞ 『洗礼・聖餐・職務－教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。			
＜参考書・参考資料等＞ A.E.マクグラス『宗教改革の思想』（教文館）。その他は、授業中に指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 1. 発表を除き、平生は資料研究中心なので、積極的に質疑応答に参加すること。2. 期末には、各自洗礼と聖餐のテーマについて、興味のある二つの異なる人物、運動の教理を取り上げ、第一次史料を分析し比較・検討せよ。現代神学と実践の立場からそれら教理の意義をレポートで論ぜよ。（分量は、400字詰めで25枚以内）。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
教理史演習Ⅱ b		棚村 重行	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 前期に同じ。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 「洗礼、聖餐、教会と職務ー中世・宗教改革から現代まで」			
<到達目標> 主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。			
<授業の概要> 後期では「教会と職務」の教理の発展を扱う。先ず WCC の「リマ文書」等の教会と職務の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、そして日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。			
<履修条件> 特にない。			
<授業計画> 第1回 コース紹介。履修者との導入討議。 第2回 発表（一） 「教会」についての現代の教理論文を読む。（学生2～3名）。 第3回 発表（二） 「リマ文書」の「職務」について。（学生3～4名） 第4回 資料研究（一） 中世の教会と職務論1（中世の教会と職務への公式教令文書） 第5回 資料研究（二） 同上 2（トマス・アキナス、ヤン・フス、教皇ピウス二世等） 第6回 資料研究（三） 宗教改革の教会と職務論1（ルターとルター派の「一致信条書」他） 第7回 資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」） 第8回 資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白、「ハイデルベルク信仰問答」） 第9回 資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他） 第10回 資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言） 第11回 資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代のカトリックの諸教令など） 第12回 資料研究（九） プューリタニズムの教会と職務論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」） 第13回 資料研究（十） メソディズムの教会と職務論（J.ウェスレーと「宗教箇条」） 第14回 資料研究（十一） 日本の諸教派の教会と職務論1（改革ー長老派系、会衆派系、メソディスト系、バプテスト系、その他） 第15回 資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における教会と職務理解、まとめ。			
<準備学習等の指示> 講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。			
<テキスト> 『洗礼・聖餐・職務ー教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。			
<参考書・参考資料等> A.E.マクグラス『宗教改革の思想』（教文館）。他は授業中に指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 前期に同じ。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
教会史特講Ⅰ a		棚村 重行	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 通年の履修が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 「英米日・福音主義の歴史―神学・信仰復興・教会形成」			
<到達目標> 履修者が、英米日の教会関係史のコンテキストにおいて、17 世紀～20 世紀の主要な信仰復興・教会形成の福音主義神学にかんする第一次史料テキストを読み、歴史洞察を深めることを目指す。			
<授業の概要> 前期では、最初に日米の「福音主義の歴史」研究の批評を行う。その上で「国際教会関係史」の観点を提起し、17～19 世紀前半（1650-1860）までの英米のピューリタニズムと移植の展開、第一次、第二次大覚醒運動期の福音主義神学と信仰復興運動論、教会形成史について、講義と史料分析を行う。			
<履修条件> 現代・近代プロテスタント神学思想の基本的な知識、あるいは英米教会史・神学思想史などへのある程度の関心と素養が必要である。			
<授業計画> 第1回 コース紹介。導入講義：英米日の「福音主義の歴史」研究の必要性：「福音主義」の定義。 第2回 講義（一）：アメリカ教会史と神学思想史解釈：D. ボンヘッフアー、D. A. スウィーニー、佐藤敏夫他。 第3回 史料分析（一）：17～18 世紀「ピューリタン大覚醒」（T. フッカー）と英国メソジズム（ウェスレー） 第4回 講義（二）：18 世紀北米における「第一次大覚醒運動」（1730～1760）植民地時代の三大教派の出現 第5回 史料分析（二）：J. エドワーズ(1)：「原罪論」、「ニューイングランド信仰復興の忠実な報告」 第6回 史料分析（三）：J. エドワーズ(2)：「信仰復興についての幾つかの考察」 第7回 講義（三）：18 世紀北米のメソジズム神学、信仰復興、教会形成：「宗教箇条」、A. クラーク他 第8回 講義（四）：19 世紀前半の「第二次大覚醒運動」（1800～1830）開拓時代の三大教派成長 第9回 史料分析（四）：19 世紀前半の新派カルヴァン主義神学の誕生：N. W. テイラー他 第10回 史料分析（五）：C. G. フィニー(1)：回心についての説教、「組織神学」から抜粋テキスト 第11回 史料分析（六）：C. G. フィニー(2)：「宗教の復興とは何か？」 第12回 史料分析（七）：長老派内の新派カルヴァン主義：A. バーンズ 「救いの道」から植村正久へ 第13回 史料分析（八）：メソジストの神学、信仰復興、教会形成： フィニーから D. D. ウィードンへ 第14回 講義（五）：幕末開国期日本：改革派-長老派-会衆派型およびメソジスト型「二つの福音」問題 第15回 講義（六）：植村正久、本多庸一、新島襄他：福音主義神学、信仰復興、教会形成、まとめ。			
<準備学習等の指示> テキストの予習と復習が大切である。			
<テキスト> コピーで配布。			
<参考書・参考資料等> A. Sweeney, <i>The American Evangelical Story</i> , Baker, 2005 を購入することが望ましい。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 前期で扱ったテーマを一つ取り上げ、それに関連した重要な第一次史料を批判的に分析し自分の解釈にもとづくレポートを作成し、提出する。分量は 400 字詰め原稿用紙に換算して 20－25 枚以内。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
教会史特講 I b		棚村 重行	＜担当形態＞ 単独
後期・2 単位		＜登録条件＞ 通年で履修することが望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 「英米日・福音主義の歴史―神学・信仰復興・教会形成」			
＜到達目標＞ 英米日の教会関係史のコンテキストにおいて、17 世紀～20 世紀の主要な信仰復興・教会形成の福音主義神学の第一次史料テキストを読み、歴史洞察を深める。			
＜授業の概要＞ 後期では、最初に日本の「福音主義の歴史」研究の批評を行う。その上で「国際教会関係史」の観点を確立し、19 世紀後半～20 世紀後半（1865-2010）までの米日の第三次、第四次大覚醒運動期の福音主義神学と信仰復興運動論、教会形成史について講義と史料分析を行う。			
＜履修条件＞ 前期に同じ。			
＜授業計画＞ 第 1 回 コースの紹介。講義（一）：「南北戦争以後の北米の社会と宗教の変貌」（T.L.スミス説の紹介） 第 2 回 史料分析（一）：19 世紀後半の「第三次大覚醒運動」（1870～1920）「都市の信仰復興」について 第 3 回 史料分析（二）：D. L. ムーディー(1)：ムーディーの諸説教にみる福音主義神学と教会形成の課題 第 4 回 史料分析（三）：D. L. ムーディー(2)：彼の信仰復興論「教会に行かぬ人に福音をどう届けるか？」 第 5 回 講義（二）：20 世紀初頭の日本の「大挙伝道」：本多庸一、植村正久他 第 6 回 講義（三）：20 世紀前半の第一次世界大戦後の北米の「近代主義」対「根本主義」論争、特に G. M. マースデンの所論に即して；北米における新たなペンテコステ派、「四重の福音」および高教会神学の出現 第 7 回 史料分析（四）：A. J. シンプソン：『四重の福音』；A. J. ゴードン『み霊の務め』 第 8 回 史料分析（五）：日本における神学の変貌：中田重治のホーリネス神学と逢坂元吉郎 の高教会神学 第 9 回 講義（四）：日米欧における「新正統主義神学」：H.R. ニーバーと熊野義孝の神学とその意義 第 1 0 回 講義（五）：20 世紀後半の「第四次大覚醒〔戦後信仰復興〕運動」（1950～1990?） 第 1 1 回 史料分析（六）：ビリー・グラハム(1)：略歴と神学諸テーマ（啓示、創造と墮罪、贖罪） 第 1 2 回 史料分析（七）：ビリー・グラハム(2)：諸テーマ（救済、教会、説教と聖礼典、終末論） 第 1 3 回 講義（六）：日本基督教団における「戦後信仰復興運動」の神学、信仰復興、教会形成の課題 第 1 4 回 講義（七）：1980 年代後の英米日の福音主義諸派の動向：北米の「宗教的右派」、「福音派」の動向 第 1 5 回 総合討論：通年の学びからみた「福音主義」とその歴史の総括。まとめ。			
＜準備学習等の指示＞ 前期に同じ。			
＜テキスト＞ 前期に同じ。			
＜参考書・参考資料等＞ D. A. Sweeney, <i>The American Evangelical Story</i> , Baker, 2005.			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 前期に同じ。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
教会史特講Ⅱ a		藤本 満	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 通年の履修が望ましい	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ ウェスレーの生涯、メソジスト運動の概要を理解する。			
＜到達目標＞ 18世紀信仰復興運動のプロテスタント史における位置づけ、現代的意義を確認する。			
＜授業の概要＞ ウェスレーに流れ込んだ思想的・信仰的背景を学び、信仰復興運動を指導し、やがてメソジスト教会、それと分岐するホーリネス運動、日本のメソジスト教会の歴史、現代のメソジスト教会の関心事に注目する。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 1. イギリス宗教改革の特色 2. 17世紀アングリカンモラリズムとピューリタニズム 3. ドイツ敬虔主義と啓蒙主義 4. オックスフォードメソジスト 5. ジョージア宣教と挫折 6. アルダスゲイト体験の意義 7. 野外説教とメソジスト運動 8. 信仰復興運動 その1 英米のリバイバルの特質 9. 信仰復興運動 その2 賛美と霊性 10. 「全き聖化」のリバイバル 11. メソジスト伝道者像 12. カリスマ指導者の死 13. 教会化と19世紀ホーリネス運動 14. 日本メソジスト教会 15. 世界のメソジストの動向			
＜準備学習等の指示＞ 指定された資料を読む。			
＜テキスト＞ 藤本満『ウェスレーの神学』（Amazon, Kindle版）			
＜参考書・参考資料等＞ 藤本満『わたしたちと宗教改革』（第一巻：歴史）日本基督教団出版局			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 1. 授業における討論への積極的参加 2. ウェスレーの生涯における出来事の一つを取り上げ、彼の生涯とメソジストへの意義を論じる。 （A4用紙、40字×30行×3枚程度）			

組織神学専攻・歴史神学関係			
教会史特講Ⅱ b		藤本 満	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 通年の履修が望ましい	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 一次資料を用いながら、ウェスレー神学に特色ある項目を学び、宗教改革者・啓蒙主義・東方教父などと比較研究を試みることで、ウェスレー神学の公同性と独自性を学ぶ。			
<到達目標> ウェスレー神学の全体像と主要な各論を習得する。			
<授業の概要> 一次資料を用いながら、ウェスレー神学に特色ある項目を学び、宗教改革者・啓蒙主義・東方教父などと比較研究を試みることで、ウェスレー神学の公同性と独自性を学ぶ。			
<履修条件>			
<授業計画> 1. 先行の恵み（人間論） 2. 信仰義認 3. 救いの確証 4. 選びの教理をめぐっての論争 5. 聖化その1 論争 6. 聖化その2 心と生活 7. キリスト者の完全 8. 最後の義認 9. 教会論 10. サクラメント 11. ウェスレーとルター 12. ウェスレーとカルヴァン 13. ウェスレーと啓蒙主義 14. ウェスレーと東方教会 15. ウェスレー解釈をめぐって			
<準備学習等の指示> 指定された資料を読む。			
<テキスト> 藤本満『ウェスレーの神学』（Amazon, Kindle 版）			
<参考書・参考資料等> 『ウェスレー説教53』3巻（インマヌエル出版事業部、あるいはAmazon Kindle 版）			
<学生に対する評価（方法・基準）> 1. 授業における討論への積極的参加 2. ウェスレー神学の一項目を取り上げて、論じる。（A4用紙、40字×30行×4枚程度）			

組織神学専攻・歴史神学関係			
教理史特講Ⅱ a		関川 泰寛	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>なし	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 宗教改革の大きな流れを考慮しつつ、ジュネーヴの改革者カルヴァンの生涯と神学を学ぶ。			
<到達目標> 一次史料を十分理解して、カルヴァンの思惟方法と神学の特質を探る。			
<授業の概要> 宗教改革者ジャン・カルヴァンの生涯と神学について学ぶ。特に『キリスト教綱要』Ⅰ～Ⅱの神論とキリスト論、聖霊論を読んで、カルヴァン神学の特色をつかむ。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回：宗教改革の時代概観：ルターからツヴィングリまで 第2回：宗教改革運動の諸相―再洗礼派や熱狂主義 第3回：カルヴァンの生涯（1）生誕から『キリスト教綱要』（初版）出版まで 第4回：カルヴァンの生涯（2）第一次ジュネーヴ滞在からストラスブルク時代 第5回：カルヴァンの生涯（3）ジュネーヴでの活動再開と改革運動の深化 第6回：カルヴァンの著作解題 第7回：カルヴァン神学の研究史概観 第8回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（1）神論Ⅰ 神認識 第9回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（2）神論Ⅱ 聖書と神認識 第10回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（3）キリスト論Ⅰ 律法と福音、キリストの三職 第11回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（4）キリスト論Ⅱ 贖罪 第12回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（5）聖霊論Ⅰ 信仰義認 第13回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（6）聖霊論Ⅱ 第14回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（7）聖霊論Ⅲ 第15回：全体に関わる質疑応答とディスカッション			
<準備学習等の指示> カルヴァンの生涯を復習しておくこと。			
<テキスト> カルヴァン『キリスト教綱要』1・2篇（渡辺信夫訳、改訳版、新教出版社）			
<参考書・参考資料等> グレーフ『ジャン・カルヴァン：その働きと著作』（一麦出版社）、ニーゼル『カルヴァンの神学』他。教室で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 積極的授業態度と演習の発表の内容、小論文を総合して評価する。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
教理史特講Ⅱ b		関川 泰寛	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞なし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 宗教改革の大きな流れを考慮しつつ、ジュネーヴの改革者カルヴァンの生涯と神学を学ぶ。			
＜到達目標＞ 一次史料を十分理解して、カルヴァンの思惟方法と神学の特質を探る。			
＜授業の概要＞ 宗教改革者ジャン・カルヴァンの生涯と神学について学ぶ。特に『キリスト教綱要』Ⅲ～Ⅳの教会論に関わるカルヴァン神学の特色をつかむ。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回：カルヴァンと礼拝 第2回：ジュネーヴの教会の実像 ・カルヴァンにおける教会と国家 第3回：ローマ・カトリック教会との対立 第4回：再洗礼派と熱狂主義者との対立 第5回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（1）悔い改めについて 第6回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（2）信仰義認 第7回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（3）福音と律法 第8回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（4）キリスト教的な自由 第9回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（5）祈りと礼拝 第10回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（6）聖書 第11回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（7）選び 第12回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（8）真の教会と偽りの教会 第13回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（9）戒規 第14回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（10）洗礼 第15回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（11）聖餐			
＜準備学習等の指示＞ カルヴァンの生涯を復習しておくこと。			
＜テキスト＞ カルヴァン『キリスト教綱要』3・4篇（渡辺信夫訳、改訳版、新教出版社）			
＜参考書・参考資料等＞ グレーフ『ジャン・カルヴァン：その働きと著作』（一麦出版社）、ニーゼル『カルヴァンの神学』他。教室で指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 積極的授業態度と演習の発表の内容、小論文を総合して評価する。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
修士論文指導演習 歴史神学Ⅰ		関川 泰寛	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 修士論文作成のための訓練を行う。特に一次史料と二次史料の読み方、論理的な思考力と文章表現を確認した上で、修士論文の作成指導を行う。			
＜到達目標＞ 修士論文作成のためのスキルと理論的な基礎を習得する。			
＜授業の概要＞ 歴史神学の領域で修士論文提出予定者の指導を行う。論文の中間発表を行い、相互の批評、研鑽を重ねる。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 1 一次史料の読み方：史料の読解 2 一次史料の分析 3 二次史料の読み方：歴史神学の学術論文の読解 4 二次史料の分析 5 論文の構想 6 論文の表現方法 7 参考文献と注 8 修士論文の中間発表：主題の提示 9 修士論文の中間発表：全体の構成 10 修士論文の中間発表：主題の展開 11 修士論文の中間発表：校正と注 12 歴史神学論文の特色 13 修士論文をめぐる討議：史料の読解と扱い 14 修士論文をめぐる討議：構成と表現 15 総括とまとめ			
＜準備学習等の指示＞ 澤田昭夫『論文の書き方』（講談社）を復習しておくこと。			
＜テキスト＞ 特に定めない。			
＜参考書・参考資料等＞ その都度指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ クラスでの貢献、発表、小論文によって総合的に評価する。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
修士論文指導演習 歴史神学Ⅱ		関川 泰寛	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 修士論文作成のための基礎知識の習得と訓練を行う。			
<到達目標> 一次史料と二次史料の読み方、論理的な思考力と文章表現を身につけることを目標とする。			
<授業の概要> 歴史神学の領域で修士論文提出予定者の指導を行う。論文の中間発表を行い、相互の批評、研鑽を重ねるとともに、研究を深める。Cantor, How to Study History を読みながら、歴史神学の論文作成の方法を学ぶ。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> Ⅰ 歴史神学の論文を書くための基礎作業 1 歴史神学とは テキスト発表① A Matter of Definition 2 一次史料と二次史料 テキスト発表② The Materials of History 3 一次史料を読む テキスト発表③ How to Use Primary Sources i 4 一次史料を読む テキスト発表④ How to Use Primary Sources ii 5 二次史料を読む テキスト発表⑤ How to Read Secondary Sources i 6 二次史料を読む テキスト発表⑥ How to Read Secondary Sources ii 7 歴史神学論文を読む テキスト発表⑦ A Practical Lesson in How to Read a History Book i 8 歴史神学論文を読む テキスト発表⑧ A Practical Lesson in How to Read a History Book ii Ⅱ 修士論文作成の準備 9 作成の注意と準備 10 論文の計画と執筆、注のつけ方 11 論文計画発表① 目次、参考文献表 12 論文計画発表② 注の付け方、テーゼの提示 13 論文計画発表③ テーゼの論証の叙述方法 14 ディカッション 15 総括とまとめ			
<準備学習等の指示> 学部演習のテキストを読みなおして、復習しておくこと。			
<テキスト> Norman Cantor, How to Study History 関川が準備する。			
<参考書・参考資料等> その都度指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> クラスでの貢献、発表、小論文によって総合的に評価する。			

組織神学専攻・実践神学関係			
キリスト教教育特講 a		長山 道	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 学期ごとの登録可	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校・高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に定める科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> キリスト教教育における学習者、特に青少年の学習者について理解を深める。			
<到達目標> 教育心理学とキリスト教教育学の関係のあり方およびその可能性を理解する。			
<授業の概要> 講義とテキストをめぐるディスカッションを行う。			
<履修条件>			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 「経験的神学」 第3回 青少年の宗教性 第4回 フロイトからエリクソンへ 第5回 ロバート・キーガン 第6回 ジャン・ピアジェ 第7回 信仰発達理論 第8回 ファウラーの信仰理解 第9回 言語・象徴・概念 第10回 認知心理学とキリスト教教育 第11回 「信仰発達」と回心 第12回 宗教性の発達と道徳性の発達 第13回 パーソナリティと宗教性の発達 第14回 発達心理学の活用と限界 第15回 総括			
<準備学習等の指示> 指定された資料を読んで講義に臨むこと。			
<テキスト> 講義中に資料を配布する。			
<参考書・参考資料等> 松島公望『宗教性の発達心理学』ナカニシヤ出版、2011年。他は講義中に指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期末にレポートを課す。			

組織神学専攻・実践神学関係			
キリスト教教育特講 b		長山 道	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 学期ごとの登録可	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校・高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に定める科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> キリスト教教育と洗礼の関係について学ぶ。			
<到達目標> 文献の扱う内容を理解する。また、その内容を教会での実践との関係で考えられるようになる。			
<授業の概要> テキストの精読、教員による解説、学生間のディスカッション。			
<履修条件>			
 <授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 現代アメリカの状況 第3回 方法論 第4回 キリスト教教育における洗礼の中心性と重要性 第5回 洗礼からの後退 第6回 三位一体の神学 第7回 キリスト教教育学の測深儀 第8回 三位一体的キリスト教教育学に向かって 第9回 ニュッサのグレゴリオス 第10回 カルヴァン 第11回 現代の状況についての考察 第12回 三位一体の神における洗礼と教育 第13回 礼拝と教育における実践 第14回 キリスト教的人格形成の神学 第15回 総括			
<準備学習等の指示> テキストを読んで講義に臨むこと。			
<テキスト> Mikoski, Gordon, S. Baptism and Christian Identity: Teaching in the Triune Name, Eedmans, 2009. 担当者が用意する。			
<参考書・参考資料等> 講義の中で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> ディスカッションの貢献度により評価する。			

組織神学専攻・実践神学関係			
実践神学演習 a		小泉 健	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 前期は R. リシャー『説教の神学』をテキストとして、説教について学ぶ。			
＜到達目標＞ リシャーの書物を理解することにとどまらず、リシャーに助けられて、説教について神学的に考察するための基礎を身につける。			
＜授業の概要＞ 毎回発表担当者が割り当てられた箇所についての要約とコメントをし、その上で討論する。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 職人芸としての説教と説教の神学 第2回 第1章 神学としての説教（「神学から排除された説教」「神学が説教のためにすること」） 第3回 承前（「説教が神学のためにすること」「神学としての説教」） 第4回 第2章 復活（「説教を呼び起こす力」「ケリュグマから物語へ」） 第5回 承前（「ケリュグマが発せられる場所」「復活の説教」） 第6回 第3章 説教において律法と福音はいかに働くのか（「分析・変化・統合」） 第7回 承前（「聖なる弁証法」） 第8回 承前（「福音の命令法」～「律法と福音についての七つの混乱」） 第9回 第4章 神の言葉としての説教（「口述的・聴覚的な言葉」「信仰は聞くことによって来る」） 第10回 承前（「イエス——宣教者にして、宣教される方」～「説教——神の言葉」） 第11回 第5章 教会の言語としての説教（「共同体的キリスト教」「場面が行為を包含する」） 第12回 承前（「主観への転換」「岐路に立つ説教」） 第13回 承前（「説教のための新しい選択肢」） 第14回 説教一「『状況』という福音」 第15回 説教二「承認すること」			
＜準備学習等の指示＞ 授業前に必ずテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。			
＜テキスト＞ R. リシャー『説教の神学——キリストのいのちを伝える』教文館、2004 年。			
＜参考書・参考資料等＞			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表、討論への参加によって評価する。			

組織神学専攻・実践神学関係			
実践神学演習 b		小泉 健	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 後期は H. O. オールド『改革派教会の礼拝』をテキストとして、礼拝学について学ぶ。			
<到達目標> テキストはとくに改革派教会の礼拝を扱っているが、改革派の礼拝についての知識を得ることにとどまらずに、礼拝にとって本質的なものは何かを知る。			
<授業の概要> 毎回発表担当者が割り当てられた箇所についての要約とコメントをし、その上で、他の教派の礼拝、日本の教会における礼拝を視野に収めながら討論する。			
<履修条件>			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 礼拝の形成的課題 第2回 第1章 いくつかの基本原理 第3回 第2章 洗礼 第4回 第3章 主の日 第5回 第4章 賛美の務め（旧約聖書～カルヴァン） 第6回 承前（英国教会～賛美の大衆化） 第7回 第5章 御言葉の務め（シナゴグの説教～中世の説教） 第8回 承前（宗教改革期の説教） 第9回 承前（ピューリタン～近世） 第10回 第6章 祈りの務め 第11回 第7章 主の晩餐（過越、主の晩餐） 第12回 承前（初代教会～カルヴァンのジュネーヴにおける聖餐） 第13回 承前（ヴェルミーリの聖餐の神学～19世紀） 第14回 第8章 日々の祈り 第9章 施し 第15回 第10章 伝統と実践			
<準備学習等の指示> 必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。			
<テキスト> H. O. オールド『改革派教会の礼拝——その歴史と実践』教文館、2012年。			
<参考書・参考資料等> J. F. ホワイト『プロテスタント教会の礼拝 その伝統と展開』日本キリスト教団出版局、2005年。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表、討論への参加によって評価する。			

組織神学専攻・実践神学関係		
キリスト教教育特研 a キリスト教教育特研	朴 憲郁	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>なし	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<授業のテーマ> 日本プロテスタント史における宗教教育論の再考		
<到達目標> 日本日曜学校運動史に見られた宗教教育論はバルトらの弁証法神学によって批判され、戦後は福音主義的教育論が主流となった。しかしバルト没後50年を経た今日、啓示神学に立脚しつつも、宗教としてのキリスト教における人間形成の視点が再評価されている。その意味で、かつて宗教教育論者の一人であった田村直臣のキリスト教教育論を批判的・積極的に考察することを目指す。		
<授業の概要> 20世紀前半の代表的な宗教教育論者の一人であった田村直臣の教育論を、小見のぞみの研究著書を通して、批判的・積極的に考察していく。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 授業テーマの序説 第2回 築地バンドの「自由民権」時代 第3回 田村の「男女同権」論（その1 銀座時代から）（第3回～14回 学生発表） 第4回 田村の「男女同権」論（その2 帰国後の男女同権論） 第5回 田村の「男女同権」論（その3 <日本の花嫁>事件） 第6回 万民の権利から「子供の権利」へ（その1 巣鴨自営館と数寄屋橋教会） 第7回 万民の権利から「子供の権利」へ（その2 「子供の権利」思想） 第8回 万民の権利から「子供の権利」へ（その3 書物に見られる子供観） 第9回 田村の日曜学校教育論（その1 日曜学校カリキュラム） 第10回 田村の日曜学校教育論（その2 日曜学校教育論） 第11回 田村の日曜学校教育論（その3 日曜学校運動における三戸吉太郎） 第12回 田村の日曜学校教育論（その1 『宗教教育の原理及び実際』における主張） 第13回 田村の日曜学校教育論（その2 『児童中心のキリスト教』に込められたもの） 第14回 田村の日曜学校教育論（その3 「バルト神学」(弁証法神学)と田村の宗教教育論） 第15回 全体的総括		
<準備学習等の指示> 次週取り扱う箇所を各自が事前に読み、授業時の学習や討論への参加に役立たせる。随時、受講生が発表する。		
<テキスト> 小見のぞみ、『田村直臣のキリスト教教育論』、教文館、2018年。各自で購入すること。		
<参考書・参考資料等> ・大澤正芳、「田村直臣の宗教教育論とその今日的意義」、2008年度、東京神学大学修士論文 ・Thmas John Hastings, Practical Theology and the One Body of Christ:Toward a Missional-Ecumenical Model, Wm.B.Eerdmanns Publishing Co., 2007, Grand Rapids, Michigan/Cambridge, U.K.(3～5章が田村論を扱う)		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業時のレポートや授業時の議論への参加度などを評価する。2/3以上の出席によって評価の対象とする。		

組織神学専攻・実践神学関係			
キリスト教教育特研 b		朴 憲郁	<担当形態> 単独
後期・2 単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 現代キリスト教教育学の使命と課題			
<到達目標> キリスト教教育の中心に据えられる教会教育を学として確立した教会教育学を中心にして、現代のキリスト教教育学の動向を把握し、その使命と課題を把握する			
<授業の概要> 各種の教会教育論を統合して学的領域として確立した教会教育学 (Gemeindepädagogik) が近年注目されている。その中心にある受洗（前・後）教育の理論と動向を見極めつつ、告白的共同体としての教会の果たすべきディダケーの職務における諸次元的広がり（聖書教育, CS 教育, family ministry, 結婚・家庭教育, 成人教育, キリスト教及び一般の学校教育への射程、その他）を考察していく。 授業の途中で、20 世紀後半のアメリカで、代表的な教会教育論の書物数冊を読んで、基本的な知識に習熟し、その後、近年注目されてきたナラティブ・ペダゴジーをナラティブ・セオロジーとの関係で把握し、論じていく。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画>			
第1回 教会教育学とは何か（講義：問題意識と背景） 第2回 教会教育学とは何か（講義：その展開） 第3回 J.D.スマート、『教会の教育的使命』（教会の教育的職能から目標設定まで） 第4回 J.D.スマート、『教会の教育的使命』（教育計画のたて方から公立学校教育まで） 第5回 L.M.ラッセル、『キリスト教教育の革新』（第一部「神の愛の賜物」から第二部「証人共同体」まで） 第6回 L.M.ラッセル、『キリスト教教育の革新』（第三部「対話」から第五部「喜びの祝宴」まで） 第7回 J.H.ウェスターホフ、『子どもの信仰と教会』（伝統的モデルから信仰者の共同体まで） 第8回 J.H.ウェスターホフ、『子どもの信仰と教会』（信仰の展開から未来への展望まで） 第9回 ジャック・L.シーモア編、『キリスト教教育の現代的展開』（シーモアからフォスターまで） 第10回 ジャック・L.シーモア編、『キリスト教教育の現代的展開』（ミラーからジャック・シーモアまで） 第11回 ナラティブ・ペダゴジーとは（教育学的背景から神学的背景まで） 第12回 ナラティブ・ペダゴジーとは（心理学的背景） 第13回 ナラティブ・ペダゴジーとは（宗教教育学との関連） 第14回 J.W.ファウラーの信仰発達論との対論 第15回 教会教育学の展望			
<準備学習等の指示> 履修者に1～2度発表していただくが、発表しない学生も当該箇所を事前に読んで、当日の議論に積極的に加わっていただく。			
<テキスト> 朴憲郁、「教会教育の出現とその特性」、『キリスト教教育論集』第20号、2012年3月、日本キリスト教教育学会、1～15頁、（プリントまた抜き刷りで担当教師が用意する）			
<参考書・参考資料等> ・J.D.スマート、『教会の教育的使命』（原著1954年）1958年、日本基督教団出版部 ・ジャック・L.シーモア編、『キリスト教教育の現代的展開』（原著1982年）1987年、新教出版社			
<学生に対する評価（方法・基準）> 2/3以上の出席を評価の前提とする。発表と討論での発言などの参加度、レポート（4000～5000字、その際参考文献2冊以上列挙、利用のこと）提出などで評価する。			

組織神学専攻・実践神学関係			
臨床牧会教育 a		ウェイン・ジャンセン	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 牧会の実習により、牧会的な心得を身につけること。			
<到達目標> 自分の牧会者像を明確にする。			
<授業の概要> 牧会実習において、講師のスーパーヴィジョンを受けて、实际的にカウンセリングと牧会ケアを学ぶ。			
<履修条件> 講義は登録者2人以上から6人未満で成立する。			
<授業計画> *オリエンテーション *牧会する場でクライアントと面接を行い、ケアを与えることを学ぶ。 *面接記録をスーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。 *各学生によるケース提出とディスカッションを行う。 第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。			
<準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。			
<テキスト>			
<参考書・参考資料等>			
<学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末面談によって評価する。			

専攻間共同科目			
日本伝道論演習 a		芳賀 力	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>通年で登録することが望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 日本伝道の課題について考える。			
<到達目標> その遂行のためのストラテジーを、総論的展望を踏まえながら、できる限り各論的にアプローチする。			
<授業の概要> 毎回、最初に問題提起のプレゼンテーションを行う。それに対するリスポンスの時間を設け、メッセージを作成する。最後に共同討議をして理解を深め、共有化を図る。			
<履修条件> 特になし。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション：二階建論、日本人の共同幻想 第2回 戦後のセキュラリズム(1) 無宗教的世俗化 第3回 戦後のセキュラリズム(2) 世俗的疑似宗教化 第4回 功利的個人主義と聖書のナラティヴ 第5回 使徒的共同体の形成、都市と地方、メディア支配の時代 第6回 教育を通しての伝道 第7回 熟年層への伝道、試練と試み 第8回 高齢者への伝道 第9回 本地垂迹説とパウロの伝道、多元主義と特定主義 第10回 底流としてのアニミズム、自然主義 第11回 平安密教系の加持祈祷、俗信と創造信仰 第12回 鎌倉浄土系の彼岸往生、祖先崇拜と終末論、死と希望 第13回 鎌倉禅仏教系の無の思想、仏教とキリスト教 第14回 明治のナショナリズム、現代のナショナリズムとグローバリズム 第15回 総括			
<準備学習等の指示> 積極的に議論に参加すること。			
<テキスト> 拙著『使徒的共同体』教文館、2004年。			
<参考書・参考資料等> 必要に応じて授業の中で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席を重視。学期末にレポートを提出する。			

専攻間共同科目			
日本伝道論演習 b		芳賀 力	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>通年で登録することが望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 日本伝道の課題について考える。			
<到達目標> その遂行のためのストラテジーを、総論的展望を踏まえながら、できる限り各論的にアプローチする。			
<授業の概要> 毎回、最初に問題提起のプレゼンテーションを行う。それに対するリスポンスの時間を設け、メッセージを作成する。最後に共同討議をして理解を深め、共有化を図る。			
<履修条件> 特になし。			
<授業計画> 第1回 福音的公同教会の伝道力 第2回 現代における救済概念の変質 第3回 罪と疎外 第4回 救済の語りの諸系譜(1) 犠牲のモチーフ a 第5回 犠牲のモチーフ b 第6回 救済の語りの諸系譜(2) 贖いのモチーフ a 第7回 贖いのモチーフ b 第8回 救済の語りの諸系譜(3) 償いのモチーフ a 第9回 償いのモチーフ b 第10回 救済の語りの諸系譜(4) 裁きのモチーフ a 第11回 裁きのモチーフ b 第12回 信仰の言語 第13回 愛の言語 第14回 希望の言語 第15回 総括			
<準備学習等の指示> 積極的に議論に参加すること。			
<テキスト> 拙著『救済の物語』日本キリスト教団出版局、1997年。			
<参考書・参考資料等> 必要に応じて授業の中で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席を重視。学期末にレポートを提出する。			

専攻間共同科目			
アジア伝道論演習 a		朴 憲郁	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞なし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 東南アジアにおけるキリスト教伝道			
＜到達目標＞ キリスト教は学問理論として研究・考察され得るが、何よりも歴史の中に働く神の啓示たるイエス・キリストの福音の力として、実践的行為において存続する。それは、キリスト共同体形成と福音伝道の形をとる。この福音伝道を理論的、歴史的に考察し、特にアジア的文脈においてこの伝道の構築を目指す。			
＜授業の概要＞ 東南アジアにおけるキリスト教伝道の展望を模索する。最初に、アジア伝道論の緒論的問題を講じた後、今回はタイとシンガポールで宣教と神学教育に携わった神学者、小山晃佑の宣教論を手掛かりに考察していく。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回： 伝道（宣教）学とは何か 第2回： アジアにおけるキリスト教－文化的、伝道論的視点から 第3回： （『水牛の神学』）－歴史を解釈する－（1～2章） 第4回： 歴史を解釈する－（3～4章） 第5回： 福音を根付かせる－（5～6章） 第6回： 福音を根付かせる（7～8章） 第7回： 福音を根付かせる－（9～10章） 第8回： タイ仏教に直面して（11章） 第9回： タイ仏教に直面して（12章） 第10回： タイ仏教に直面して（13章） 第11回： 文脈におけるキリスト教信仰の解釈（14章） 第12回： 文脈におけるキリスト教信仰の解釈（15章） 第13回： 文脈におけるキリスト教信仰の解釈（16章） 第14回： 文脈におけるキリスト教信仰の解釈（17章） 第15回： 文脈におけるキリスト教信仰の解釈（18章）			
＜準備学習等の指示＞ 講義をするが、受講者もテーマに従って発表していただく。次週授業で扱うテキスト箇所は皆が事前に読んで予備知識をもち、議論に参加できるよう心がけること。			
＜テキスト＞ 小山晃佑著、森泉弘次訳、『水牛神学』－アジアの文脈のなかで福音の真理を問う－、教文館、2011年。各自で入手すること。			
＜参考書・参考資料等＞ ・日本基督教団出版局編、『アジア・キリスト教の歴史』、1991年 ・『アジア・キリスト教史[2]』、1985年 初版、重版、教文館。その他、授業時に随時紹介する。 ・朴憲郁、「日本プロテスタント伝道の一考察－アジア伝道の視点から－」、『神学』、71号、2009年12月。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業時の発表、参加度、学期末レポート（6000字程度）などによって評価する。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。			

専攻間共同科目			
アジア伝道論演習 b		朴 憲郁	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>なし	
教職課程に おける要 件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 今日の伝道(宣教)学			
<到達目標> アジア諸国への福音伝道は、誰がどのような展望と使命によって推進されたのか、また伝道された非キリスト教諸国の人々は独自の文化・宗教・言語圏の中でどのように受容し、反応したのかを知る。それをこのたびは、20世紀後半の代表的宣教学者の伝道理解を学ぶ。			
<授業の概要> 伝道(宣教)学とは何かを序論として解説した後、ヒンドゥー教国のインドで長年宣教活動にたずさわったイギリス出身の宣教師、レスリー・ニュービギンの「宣教学」を一つ一つ学ぶ。			
<履修条件> 等になし			
<授業計画> 第1回 序説1－伝道（宣教）学とは何か－ 第2回 序説2（その1）－キリスト論的三位一体論 第3回 序説2（その2）－キリスト論的三位一体論における諸宗教との対話－ 第4回 序説3－韓国におけるキリスト論的三位一論の展開の試みとその批判 （以下、テキストに従って、5～14まで学生発表と講義） 第5回 議論の背景 第6回 権威の問題 第7回 三位一体の神の宣教 第8回 御父の御国を宣べ伝えること－信仰としての宣教－ 第9回 御子の生を分かち合うこと－愛としての宣教－ 第10回 聖霊の証しを担うこと－希望としての宣教－ 第11回 福音と世界の歴史 第12回 神の正義のための行動としての説教 第13回 教会成長、改宗、文化 第14回 諸宗教の中の福音 第15回 アジア伝道の反省と展望（講義）			
<準備学習等の指示> 指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。随時発表もしていただく			
<テキスト> レスリー・ニュービギン、『宣教学入門』、鈴木脩平訳、日本キリスト教団出版局編、2010年。各自で入手する。			
<参考書・参考資料等> 1. 朴憲郁(Heon-Wook Park)、Perspective of the Northeast Asian Mission from the Viewpoint of Pauline Theology - Focused on Christology -, 『神学』72号、東京神学大学神学会、2010年、教文館、143～166頁			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業時の発表、参加度、学期末レポート（(6000字程度）などによって評価する。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。			

実践神学研修課程			
説教学演習Ⅰ		小泉 健	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 説教の本質を問う説教学的議論に触れつつ、説教作成の方法を吟味し学ぶ。			
＜到達目標＞ 説教作成の方法を職人芸のようにして身につけるだけではなく、つねに説教学的な反省と結びつけながら批判的に習得し、説教者として自己研鑽していくための土台を得ること。			
＜授業の概要＞ 説教準備の一つ一つの段階の意味について考察しつつ、最初の黙想から説教行為までの実際に取り組む。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第１回 説教と聖書、説教テキストの朗読 第２回 黙想とは何か 第３回 説教学の課題 課題①第一黙想の提出 第４回 釈義と説教準備 第５回 歴史的方法と正典、礼拝における「聖書」、釈義とは何か 第６回 説教学的な聖書の解釈、「解釈と適用」の問題 課題②釈義の提出 第７回 説教黙想とは何か 第８回 釈義と教理、説教と教義学 第９回 説教における説教者 課題③説教黙想の提出 第１０回 会衆をめぐる黙想 第１１回 キリストの物語とわたしたちの生活 第１２回 説教と救済史、終末をめぐる黙想 課題④第二の説教黙想の提出 第１３回 説教の構造と構成 第１４回 説教の始め方と終わり方 第１５回 説教の演述 課題⑤説教原稿の提出			
＜準備学習等の指示＞ 聖書全巻を通読しておくこと。日々の祈りと黙想の生活を確立すること。			
＜テキスト＞ 聖書			
＜参考書・参考資料等＞ R. ボーレン『説教学Ⅰ』『説教学Ⅱ』日本基督教団出版局（Ⅱはオンデマンド） その他については、テーマごとに教室で指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 説教作成の諸段階で、その都度レポートを提出する。			

実践神学研修課程			
説教学演習Ⅱ		小泉 健	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 説教学演習Ⅰを履修済み（予定）	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 説教学の基本を学び、会衆席の説教学として実際になされた説教を分析する方法を身につける。			
＜到達目標＞ 多様な説教に触れて説教理解を拡大し、説教を享受する力を磨くこと。			
＜授業の概要＞ 説教分析の方法論を明確にし、実際になされた説教を取り上げて、説教分析に実際に取り組む。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第1回 会衆席の説教学 第2回 分析（1）植村正久の説教を読む 第3回 なぜ説教を「分析」するのか？——説教分析論 第4回 分析（2）竹森満佐一の説教を読む 第5回 どこで心が燃えたか？——印象批評と第一印象論 第6回 分析（3）加藤常昭の説教を読む 第7回 その説教は何をしているのか？——説教の構造と構成をめぐる問題 第8回 分析（4）マルティン・ルーサー・キングの説教を読む 第9回 説教における「わたし」は何者か？——説教における説教者をめぐる問題 第10回 分析（5）カール・バルトの説教を読む 第11回 だれに向かって語っているのか？——説教における聞き手をめぐる問題 第12回 分析（6）ヴァルター・リュティの説教を読む 第13回 その説教の「テキスト」は何か？——説教と聖書テキストをめぐる問題 第14回 分析（7）ルドルフ・ボーレンの説教を読む 第15回 神の御声が聞こえてきたか？——説教における神の名 ＊さまざまな説教者の説教を読むことを予定しているが、受講者の希望により、受講者の説教を取り上げることも可能である。 ＊希望があれば、自由参加による説教批評のクラスを行う。			
＜準備学習等の指示＞ 聖書全巻の通読を続けること。配布される論文、説教を十分読んで準備すること。			
＜テキスト＞ 授業時に、次回読む論文または説教を配布する。欠席した場合は取りにくること。			
＜参考書・参考資料等＞ 加藤常昭『説教批判・説教分析』教文館、2008年。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表と授業への参加度、レポートによって評価する。			

実践神学研修課程			
説教学演習Ⅲ		大住 雄一	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 実際に説教を作成し、同級生の前で語り、それについて説教批判を受けてみる。			
＜到達目標＞ 伝道者として説教を担当できるようになる。			
＜授業の概要＞ 担当者を決めて、指定された聖書テキストに従って説教を準備し説教する。また説教批評を共有し、説教者としての自己吟味の能力を養う。			
＜履修条件＞ 修士論文を提出し、受理されて、博士課程前期課程修了見込みである者。			
＜授業計画＞ 第1回：諸信条、信仰告白・信仰問答における説教 説教とは何か 説教者とは何か 第2回：テキストの選び方、区切り方 第3回：信徒研修会・修養会の開会礼拝 第4回：信徒研修会・修養会の閉会礼拝 第5回：わたしの福音1 第6回：わたしの福音2 第7回：わたしの福音3 第8回：わたしの福音4 第9回：わたしの福音5 第10回：旧約聖書による説教1 第11回：旧約聖書による説教2 第12回：聖餐式のある日の説教1 第13回：聖餐式のある日の説教2 第14回：洗礼式のある日の説教 第15回：まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 説教の基本書を読む。			
＜テキスト＞ 普段教会で使っている聖書（日本語）			
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じて指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表した説教によって評価する。			

実践神学研修課程			
礼拝学演習		小泉 健	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 修士論文を提出し、2020 年 4 月に教会、学校に赴任する意志が明確であること	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 礼拝学の基本、特に教会の礼拝を司る者が身につけるべき礼拝学的思考の特質を学ぶ。			
＜到達目標＞ 教会や学校で礼拝を整え、奉仕者を指導し、結婚式、葬式等の諸式を執り行うことができるようになること。			
＜授業の概要＞ 主日礼拝の主要な要素や、主日礼拝以外の諸礼拝、結婚式、葬儀などについて、毎回テーマを定め、参加者の発表を通して学ぶ。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第1回 礼拝学的思考の特質について 第2回 聖書における礼拝 第3回 宗教改革の礼拝 第4回 典礼の刷新、東方教会の奉神礼 第5回 現代の礼拝、礼拝改革 第6回 礼拝式と祈祷、祝祷 第7回 賛美、礼拝音楽 第8回 献金・奉獻、礼拝奉仕 第9回 洗礼式、幼児洗礼と幼児祝福 第10回 聖餐礼典 第11回 結婚式・婚約式 第12回 葬儀 第13回 礼拝堂、礼拝堂の使用 第14回 教会暦と聖書日課 第15回 教会学校の礼拝、学校礼拝			
＜準備学習等の指示＞ 発表者だけでなく、参加者全員が自分なりの課題や意見を整理して演習に臨むこと。			
＜テキスト＞ 授業時に毎回資料を配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 由木康『礼拝学概論』新教出版社、2011 年。 W. ナーゲル『キリスト教礼拝史』教文館、1998 年（オンデマンド）。 その他については第1回の授業時にテーマごとに紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表と授業への参加度によって評価する。			

実践神学研修課程			
牧会学演習		小泉 健	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 実践神学を牧師学としてとらえ、牧師が身につけるべき基本を学ぶ。			
＜到達目標＞ さまざまな牧会の場面において、ふさわしい対応ができる基礎を得ること。ただ一つの正解があるわけではなく、その都度の対応が求められるが、それを神学的に反省する力を身につけること。			
＜授業の概要＞ 牧師が担うべき教務、牧師が実践活動を行う場面を一つずつ取り上げ、参加者の発表を通して必要な知識と方法を身につける。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第１回 牧師学としての実践神学 第２回 召命と准允・按手、「牧師職」、赴任と離任、招聘制度と牧会 第３回 教会でのふるまい、教会での人間関係 第４回 告解・面談・訪問 第５回 結婚と離婚、同性愛 第６回 キリスト者の家庭と信仰の継承 第７回 病者の牧会、病床訪問 第８回 精神障がい者の牧会、牧会カウンセリング 第９回 高齢者の牧会 第１０回 葬儀とその周辺 第１１回 洗礼への導きと受洗準備、受洗後教育 第１２回 聖餐と牧会 第１３回 教会戒規 第１４回 教会会議（教会総会、役員会）と議長職 第１５回 全体教会と個教会、教会の制度、教会共同体の形成			
＜準備学習等の指示＞ 発表者だけでなく、参加者全員が自分なりの課題や意見を整理して演習に臨むこと。			
＜テキスト＞ 授業時に毎回資料を配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ E. トゥルナイゼン『牧会学Ⅰ』『牧会学Ⅱ』日本基督教団出版局、1961、1970年（オンデマンド）。 ウィリアム・ウィリモン『牧師』新教出版社、2007年。 その他については第１回の授業時にテーマごとに紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表と授業への参加度によって評価する。			

実践神学研修課程			
総合特別講義		小泉 健	<担当形態> オムニバス
後期・4単位		<登録条件> 修士論文を提出し、2020 年 4 月に教会・学校に赴任する意志の明確な者	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 牧会・伝道上直面する具体的な問題に適切に対応していくために専門家の指導を受ける。			
<到達目標> 牧会上の典型的な問題とその対策を理解し、自分なりに応用していくための基礎を身につける。			
<授業の概要> それぞれ分野の専門家が、テーマごとに二コマを単位として講義を行う。			
<履修条件> これまでの学びを総合する重要な授業なので、原則として全回出席すること。			
<授業計画> 第1回：関川泰寛教授「東京神学大学史Ⅰ」歴史的歩み＝前史 第2回：関川泰寛教授「東京神学大学史Ⅰ」歴史的歩み＝合同神学校以後 第3回：関川泰寛教授「東京神学大学史Ⅱ」日本基督教団関係史（紛争前） 第4回：関川泰寛教授「東京神学大学史Ⅱ」日本基督教団関係史（紛争後） 第5回：山口隆康講師「日本基督教団史Ⅰ」日本基督教団成立前 第6回：山口隆康講師「日本基督教団史Ⅰ」日本基督教団成立後 第7回：長山信夫講師「日本基督教団史Ⅱ」教団史と紛争史の視点 第8回：長山信夫講師「日本基督教団史Ⅱ」「教団紛争」とは何であったか？ 第9回：大住雄一教授「日本基督教団教憲・教規」 第10回：大住雄一教授「各教会規則・宗教法人規則」 第11回：川島隆一講師「部落解放とキリスト教」 第12回：川島隆一講師「部落解放とキリスト教」 第13回：小島誠志講師「地方伝道」 第14回：小島誠志講師「地方伝道」 第15回：増田将平講師「青年伝道」 第16回：増田将平講師「青年伝道」 第17回：山崎忍講師「刑務所伝道」 第18回：山崎忍講師「刑務所伝道」 第19回：春原禎光講師「ITと伝道」 第20回：春原禎光講師「ITと伝道」 第21回：山崎ハコネ講師「高齢者ケアと牧会」 第22回：山崎ハコネ講師「高齢者ケアと牧会」 第23回：篠浦千史講師「障がい者と教会」 第24回：篠浦千史講師「障がい者と教会」 第25回：朴米雄講師「在日コリアン問題」 第26回：朴米雄講師「在日コリアン問題」 第27回：愛澤豊重講師「キリスト教系諸宗団の問題」 第28回：愛澤豊重講師「キリスト教系諸宗団の問題」 第29回：石橋秀雄講師「教会付属幼稚園・保育園（所）の諸問題」 第30回：石橋秀雄講師「教会付属幼稚園・保育園（所）の諸問題」 第31回：棚村重行特任教授「エキュメニズムⅠ（世界のエキュメニズム）」 第32回：棚村重行特任教授「エキュメニズムⅠ（世界のエキュメニズム）」 第33回：朴憲郁特任教授「エキュメニズムⅡ（東アジアのエキュメニズム）」 第34回：朴憲郁特任教授「エキュメニズムⅡ（東アジアのエキュメニズム）」 第35回：野村忠規講師「牧会者の試練とその克服」 第36回：野村忠規講師「牧会者の試練とその克服」 ※講師は予定。当該年度に決定する。			
<準備学習等の指示> 日本基督教団の補教師試験を受験する者は、「補教師試験の過去問題集」に目を通しておくこと。			
<テキスト> 「日本基督教団史」「教務関係書式集」「日本基督教団教憲教規および諸規則」等、講師がその都度指示する。			
<参考書・参考資料等> 担当教員、講師がそれぞれの講義の中で紹介する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 教職セミナーを含む毎回の講義の出席を評価の前提とする。学期末には、牧会にあたってとくに有益であったことをまとめたレポート（約2000字）を作成する。その末尾に今後の総合講義に対する意見も述べる。			